

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 1		パンジー(ヨーロッパ) [231ページ上段右 原産地]ヨーロッパ	不正確である。	3-(1)	
2	表見返 1		プリムラ マラコイデス(中国雲南省・四川省) [185ページ上段右 原産地] (マラコイデス・オブコニカ) 中国西部(雲南省)・ヒマラヤ	相互に矛盾している。 (原産地が異なる。)	3-(1)	
			[表見返2]アジサイ(日本・南北アメリカの一部) [178ページ3行]日本原産である [178ページ上段左 原産地]日本, 北			
			アメリカの一部 [表見返2]ペチュニア(ブラジル・アルゼンチン) [229ページ上段右 原産地]南アメリカ			
			カ [185ページ上段右 ポリアンサ・ジュリアン]地中海沿岸・コーカサス [236ページ上段左]ヨーロッパ			
3	表見返 2		ニューギニアインパチエンス(ニューギニア) [238ページ上段左]Impatiens 熱帯アフリカ, ケニア, タンザニア	生徒にとって理解し難い表現である。 ([238ページ3行]「インパチエンスはアフリカハウセンカともいう。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
4	表見返 4		[プリムラ類]p. 236 [表見返5カーネーション]p. 129 [表見返5キク]p. 124 [表見返6バラ]p. 153 [表見返6下段左]パンダ	誤りである。	3-(1)	
			[表見返11バラ]p. 153~155			
5	表見返 7		[上段右]クロルメコート [中段右]STS処理	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
6	表見返 9		[上段左]いちよう病 [上段中]いちよう細菌病 [上段右]いちよう病 [186ページ24行]萎ちよう病	表記が不統一である。	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[表見返9 上段左]立枯病 [90ページ表6]立ち枯れ病 [91ページ表8]苗立ち枯れ病 [131ページ8行]立ち枯れ性 [186ページ24行]立枯れ病			
			[187ページ27行]立ち枯れ病 [232ページ16行]立ち枯れ病 [238ページ20行]苗立ち枯れ病 [239ページ15行]苗立ち枯れ病 [240ページ13行]苗立ち枯れ病			
			[表見返9 下段左]斑点細菌病 [90ページ表6]斑点性細菌病 [17ページ図12]花壇苗			
			[17ページ図12]花壇用苗 [21ページ図4]花壇苗 2か所 [17ページ図12]アメリカ合衆国 [28ページ12行]アメリカ合衆国			
			[29ページ6行]アメリカ [29ページ17行]アメリカ合衆国 [30ページ19行]アメリカ合衆国 [21ページ8行]草花産出額			
			[14行]草花産出額 [図4]草花類の産出額 [91ページ表8]葉腐細菌病 [176ページ表4]葉腐れ細菌病			
			[91ページ表8]葉枯れ病 [135ページ19行]葉枯れ病 [238ページ20行]葉枯病			
7	13	図4	切り花における産出額割合が伸びている切り花 ダリア トルコギキョウ ユリ(LA系) ヒマワリ [13ページ表1]全体 [26ページ3行]切り花・鉢ものの80%弱	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
			は，卸売市場経由で流通している。 [26ページ12～13行]売場面積が200m2未満の～国内に120以上もあり， [26ページ側注3]切り花と鉢ものの産出額が～98%をとり扱っている。			
			[27ページ図13]小売業者は約25,000店 [29ページ6～7行]切り花の最大の輸入国は～ロシア，日本の順である。 [29ページ16～18行]世界における球根の輸出入も，～輸出されている。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[30ページ10～12行]以前は多かった～輸入が増加している。 [30ページ15～16行]輸出は植木・盆栽・鉢もの～行われている程度である [89ページ表5 パクロボトラゾール			
			適用草花]キク・ポインセチア・アザレア・ハイドランジアなど [112ページ4～5行]近年では流通量の80%以上が八重咲きになっている。 [114ページ表5]全体			
			[124ページ4～5行]輪ギクは～白と黄の品種で97%を占める [124ページ側注1]オランダでは、～組み合わせて周年生産している。 [124ページ側注2]春彼岸用は、沖縄で			
			90%以上生産されている。 [129ページ6～8行]コロンビアや中国など～約40%を輸入品が占める。 [160ページ表1]全体 [193ページ12～13行]苗代が生産費に			
			占める割合～洋ランに比べて高い。 [199ページ24～25行]最近は、鉢花用のミニ系カトレアの需要も伸びている。 [204ページ8～9行]需要は2005年頃を			
			境に減少し、近年は横ばい傾向にある。 [210ページ3行]急速に需要が伸びた種類にベンジャミンがある。			
8	14	2 - 3	草花の種類は、果樹や野菜に比べて非常に多く、園芸化したものだけでも8,000種類以上になる。 [17ページ22～24行]その他の主要な切り花は、～太平洋岸の各県で多い。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			[19ページ11～12行]花壇苗の生産は～ピーク時より27%少なくなった。 [21ページ9～11行]1998年には6,300億円～3,700億円となっている。 [21ページ11～12行]2017年では、農業			
			総産出額9兆3千億円の3.7%にあたる。 [21ページ12～13行]花の販売農家数は～2.6%となっている(2015年)。 [22ページ7～9行]世界的にみても、～欧米ではバラの割合が高い。			
			[22ページ10～11行]鉢もの生産のなかでは、～ついでシクラメンが多い。 [23ページ2～3行]2017年の出荷本数が～草花産出額の5.7%を占めた。 [23ページ7～10行]チューリップ・ユ			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			リなどで～割合は、3.0%である。 [23ページ15～18行]切り花は業務用・ギフト用～購入する割合は少ない。 [23ページ側注2]第2次世界大戦後～輸出球根が輸入球根を上回っていた			
			[30ページ3～4行]2017年には598億2,000万円～5倍になっている。 [30ページ6行]日本の総供給量の27%を占める。 [66ページ図4]全体			
			[81ページ表1]全体 [82ページ図4]全体 [95ページ図8]全体 [96ページ表1]全体 [102ページ12～16行]中国・コロンビ			
			ア～生産にも影響を及ぼしている。 [129ページ側注1]カーネーションに～育成された品種の総称 [134ページ表11]全体 [137ページ側注1]シュート形成は18～			
			25℃、～で促進される [139ページ12行]シダ類は世界各地に1万種が分布する [152ページ図3]全体 [172ページ18行]光強度は200～300			
			$\mu\text{mol}/(\text{m}^2 \cdot \text{s})$ くらいでよく生育する [177ページ表6]全体 [182ページ7～8行]限界日長は、おおよそ12.5時間である。短日処理15日後から花芽分化し、40～45日で完成する			
			。 [201ページ12～13行]10～15℃程度の低温～各節に花芽が分化する。 [206ページ表3]全体 [216ページ17行]サボテン科植物は約			
			100属、約2000種を数え、 [233ページ7～8行]秋の低温(平均気温15℃、夜温10℃以下)で発色する。 [253ページ側注4]自閉症、アスペルガー症候群その他の自閉スペクトラム症			
			(広汎性発達障害)、学習症、注意欠如多動症など。			
9	16	16	地被植物① [側注1]地表面をおおうように広がる草丈の低い植物。～近年は、グランドカバープランツとよばれることも多い。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「地被植物」,「グランドカバープランツ」,「カバープランツ」の違いについて理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[33ページ16行]カバープランツ [36ページ6行]カバープランツ [36ページ19行]カバープランツ [241ページ1行]カバープランツ [241ページ2行]地面をおおうように生			
			育する植物をカバープランツという。 [241ページ4行]カバープランツ [241ページ20行]カバープランツ [241ページ図29]カバープランツ			
10	16	図8	写真 [139ページ図45]写真	生徒にとって理解し難い写真である。 (図タイトルの植物であると理解し難い。)	3-(3)	
11	17	図12	主要草花生産国の切り花・鉢もの・花壇苗の産出・販売額割合(2017)	生徒にとって理解し難い表現である。 (産出・販売額の図であることが理解し難い。)	3-(3)	
12	18	図16	ファレノプシス	誤記である。	3-(2)	
13	18	側注2	F1シクラメンは1粒30～40円, F1ガーベラは1粒35～40円である。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (価格帯が固定されていると誤解する。)	3-(3)	
14	20	図1	全体 [52ページ表1]全体 [55ページ図13]全体 [58ページ図20]全体 [60ページ図25]全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
			[60ページ表4]全体 [69ページ表2]全体 [116ページ表9]全体 [160ページ図1]出荷額が高い鉢ものはファレノプシス(胡蝶蘭)である。			
			[181ページ図26]全体 [194ページ図13]全体 [198ページ図20]全体			
15	21	図4	農林水産省作物統計調査「平成29年産花き生産出荷統計」 [22ページ図5]農林水産省作物統計調査「平成29年産花き生産出荷統計」 [34ページ図7]「家計調査年報」	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[124ページ表2]農林水産省作物統計調査「平成28年産花き生産出荷統計」			
16	22	1 - 4	キクの割合が高く、切り花産出額の31.1%(生産本数15億4,000万本)、ついでユリ10.3%(1億3,760万本)、バラ8.6%(2億4,820万本) [図5]キク1,504 (30.1)	相互に矛盾している。 (値が異なる)	3-(1)	
			ユリ138 バラ248			
17	22	11 - 12	グループとしては、洋ランについて観葉植物、花木類の生産が多い。	誤りである。 (図5(b)との関係において)	3-(1)	
18	22	図5	[(a)切り花類 産出額]各項目の合計	誤りである。 (各項目の合計が合計の値と異なる。)	3-(1)	
19	23	2	出荷額	生徒にとって理解し難い表現である。 ([22ページ図5(a)]産出額, [23ページ8行]産出額に照らして理解し難い。)	3-(3)	
20	23	図7	[横軸](年)	誤りである。	3-(1)	
21	24	図8	日本とオランダの切り花市場価格の比較(2016年) A review of production statistics for the cut flower and foliage sector Updated 2018.	生徒にとって理解し難い表現である。 (年次が異なることについて理解し難い。)	3-(3)	
22	28	側注2	仲卸売参人	誤記である。	3-(2)	
23	30	3 - 4	2017年には598億2,000万円 [図18]全体	相互に矛盾している。 (値が異なる。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
24	30	5	総輸入数量は13億4,000万本 [図19]全体	相互に矛盾している。 (値が異なる。)	3-(1)	
25	32	図2	対象区	誤記である。	3-(2)	
26	33	17	農村景観創造(図5) [図5]村景観創造の例	表記が不統一である。	3-(4)	
27	34	図6	鮮度保持剤	生徒にとって理解し難い表現である。 ([108ページ18行]「品質保持剤」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
28	35	11	ハイドロカルチャー	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
29	35	図9	オリビア [112ページ表3]全体 [115ページ表6]全体 [117ページ表10]全体 [118ページ表12]全体	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
			[119ページ表13]全体 [120ページ13行]松本系品種 [120ページ表15]全体 [125ページ表4]全体 [129ページ表6]全体			
			[132ページ表8]全体 [135ページ表13]全体 [142ページ表1]全体 [154ページ表3]全体 [173ページ表2]全体			
			[187ページ側注1]全体			
30	35	図9	Dianthus. L	不正確である。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
31	36	14	寄せ植え(コンテナガーデン)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (括弧内外の関係について誤解する。)	3-(3)	
32	36	18 - 19	花がら処理の手間が少ないセルフクリーニング植物	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ花がら処理の手間が少ないかの説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
33	37	2	草花や園芸活動の効用 [表2]園芸療法で期待される効果全体	生徒にとって理解し難い表現、表である。 (「効用」と「効果」の違いについて理解し難い。)	3-(3)	
34	38	7 - 9	フラワーデザイン(フラワーアレンジメント)・花壇デザイン・寄せ植え・盆栽・生け花・ドライフラワー・押し花などが含まれる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (フラワーデザイン・フラワーアレンジメント・花壇デザイン・寄せ植え・盆栽・生け花・ドライフラワー・押し花の関係について誤解する。)	3-(3)	
35	38	図1	(d)フィラーフラワー 「フィラ」は	表記が不統一である。	3-(4)	
36	39	図2	[(b)]インパチエンス [(c)]クリーピングタイム [(e)]ナスターチウム	誤記である。	3-(2)	
37	40	21	明るいパステルカラー①	生徒にとって理解し難い表現である。 ([側注1]「パステルカラーとは、純色に明るい灰色を混ぜた明るくやわらかな色合いをさす。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
38	41	12	無彩色① [42ページ16行]図11(a)～(c) [43ページ1～2行]図10(c) [50ページ11行]発芽(→p. 54) [60ページ8～9行]エテホン③	誤りである。 (参照先について)	3-(1)	
			[60ページ10行]SADH④ [64ページコラム]キュー植物園(図4) [69ページ側注1]図13(d) [74ページ10～11行]取り木の方法には、高取り法・伏せ木法・盛り土法など			
			がある(図26)。 [102ページ側注1]おもな切り花類の出荷量と産出額についてはp. 18図5参照。 [102ページ側注2]草花の輸入の状況(

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			→p. 26[図22参照]。 [151ページ側注1]花木の切り花の購入が増えている(図1)。 [173ページ7行]多くの品種がある(図10)。			
			[185ページ7行]マラコイデス(図39) [185ページ8行]オブコニカ(図40) [245ページ9行]鉢もの生産では、かん水作業に最も労働を要する(→p. 175) [245ページ11行]施設利用の面から(→			
			p. 176 [図22])			
39	42	22 - 23	切り花を花びんにいける「投げ入れ」では、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「投げ入れ」の説明が理解し難い。)	3-(3)	
40	46	実習	ケト土	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
41	48	図23	(b)立体作業用 写真	生徒にとって理解し難い表現、写真である。 (「立体作業用」について理解し難い。)	3-(3)	
42	50	12	花芽分化により生殖成長へと移り③ [側注3]栄養成長から生殖成長へと移ることを花成(→p. 56)という。 [56ページ16行]花序や花芽の分化と発達(花成)	生徒にとって理解し難い表現である。 (花成の説明が異なり理解し難い。)	3-(3)	
43	51	側注2	それぞれ、前表皮、基本分裂組織、前形成層、原根層(図2)という。 [図2]全体	生徒にとって理解し難い写真である。 (「図2に「前表皮」, 「前形成層」, 「原根層」がなく理解し難い。)	3-(3)	
44	51	側注6	種子からシュート(→p. 54)を発生することを発芽、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (発芽について誤解する。)	3-(3)	
45	52	12 - 13	効率的なからだづくりのために、それぞれの器官・組織・細胞が独自の機能をもつようになる。このような変化を発達とよぶ。 [側注5, 6]成長と発達は厳密には区別	誤りである。 (発達, 発育, 生育の関係)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			できないことから、これらをまとめて発育または生育という。 [164ページ27～28行]発育に応じて施肥量を増やしていく。			
46	52	20 - 21	光が弱いと、より多くの光を受けるために、節間は伸び、葉はうすく横に広がってクロロフィル量を増加させる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (葉はうすく横に広がることでクロロフィル量が増加すると誤解する。)	3-(3)	
47	55	14	(m・s) [15行](m・s) [側注3](m ² ・s ¹)	誤記である。	3-(2)	
48	56	5 - 6	夜間の温度(夜温)を昼間の温度(昼温)より低くして成長をうながす①。 [側注1]夏に夜温が低い高冷地や寒冷地の栽培で高品質になるのもよい例である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (高品質の説明が不明瞭であるため、成長をうながして高品質になることと成長が抑制されるのを利用することの関係が理解し難い。)	3-(3)	
			[13～15行]昼温より夜温を高めたーDIFでは成長が抑制されて草丈が低くなるため(図16)、この現象を利用した鉢花生産や苗生産も行われる。			
49	57	2	花序は、有限花序と無限花序に分けられる(図17)。 [図17](a)有限花序 (b)無限花序 (c)複合花序	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文記述と図の関係について理解し難い。)	3-(3)	
50	57	6	花芽分裂組織 [57ページ側注1]花芽分裂組織	生徒にとって理解し難い表現である。 (専門用語として理解し難い。)	3-(3)	
51	57	13 - 14	最も多くの植物がもつ色素は黄色系フラボノイドやアントシアニンで、 [側注3]フラボノイド・アントシアニン・ベタレインは水溶性で	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (フラボノイドとアントシアニンの関係について誤解する。)	3-(3)	
52	57	図17	多散花序(ミズキ) 単散散形花序(アルストロメリア)	不正確である。	3-(1)	
53	57	図18	花床(托)	誤りである。 (「托」)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
54	58	18	光が通らないフィルムで遮光(シェード)して [61ページ25～27行]夏秋ギクを光が通らないフィルムでおおい、花芽分化に必要な短日を確実に与えることで早く	生徒にとって理解し難い表現である。 (シェード栽培の説明が異なること及びフィルムとシートと違いについて理解し難い。)	3-(3)	
			開花させる作型が促成栽培(シェード栽培)である。 [126ページ側注4]光を通さない銀色や黒色のシートでおおって暗くし、人工的に日長を短くする方法をシェード栽培という。			
55	58	18	遮光 [72ページ図17]しゃ光 [99ページ6, 7, 8, 10, 12, 14, 15, 16行]しゃ光 [116ページ9行]しゃ光	表記が不統一である。	3-(4)	
			[144ページ8, 9, 10行, 図10, 図11]しゃ光 [145ページ図13]しゃ光 [148ページ図22]しゃ光 [149ページ図24, 図26]しゃ光			
			[150ページ図30]しゃ光 [172ページ図8]しゃ光 [175ページ11行, 12行, 図15]しゃ光 [194ページ11行]しゃ光 [194ページ図12]しゃ光 (2か所)			
			[197ページ9行, 図19]しゃ光 [199ページ図22]しゃ光 [200ページ3行]しゃ光 [203ページ23行, 25行]しゃ光 [205ページ表2]しゃ光 (2か所)			
			[209ページ8行]しゃ光 [211ページ20行]しゃ光 [213ページ15行, 22行]しゃ光 [215ページ29行]しゃ光 [231ページ26行]しゃ光			
56	58	表2	[短日植物]シュッコンアスター	誤りである。	3-(1)	
57	60	図24	開花までの日数のデータ	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
58	60	側注2	冬至芽(とうじが)	誤りである。 (ルビ)	3-(1)	
59	64	側注3	優良品種の母親に、特定の形質をもつ品種の花粉を交配し、その後代に繰り返し母親の花粉を交配して選抜することで、母親に特定の形質だけを付与する方法。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (母親だけと誤解する。)	3-(3)	
60	64	コラム	野生植物を集めることを仕事とする人々を、プラントハンターとよぶ。～現代のプラントハンターは、個人・植物園・企業とさまざまであるが、いまでも世界中に新しい草花を求めている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (現代のプラントハンターも制約なく野生植物を集めていると誤解する。)	3-(3)	
61	64	コラム	東京大学理学系研究科附属植物園	不正確である。	3-(1)	
62	66	側注1	未譲渡性：登録前1年よりも以前に出国していない。	不正確である。 (外国の場合の記載がない。)	3-(1)	
63	69	図9	セル成型トレイ [70ページ11行]セルトレイ [70ページ図11]セルトレイ [70ページ図12]セルトレイ [174ページ図9]セル成型トレイ	表記が不統一である。	3-(4)	
64	69	実験	ペトリ皿を恒温器に入れ、光を当て、20℃に保つ。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての発芽勢と発芽率の調査で光を当てると誤解する。)	3-(3)	
65	70	15	用土の調整	生徒にとって理解し難い表現である。 (「調整」について理解し難い。)	3-(3)	
66	72	側注2	ポインセチアや木本性植物などは切り口に発根阻害物質があるので	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての木本性植物の切り口に発根阻害物質があると誤解する。)	3-(3)	
67	72	側注4	植物ホルモンのオーキシンの一種であるインドール酢酸(IBA)やナフトレン酢酸(NAA)が用いられる。	誤りである。 (インドール酢酸(IBA))	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
68	73	側注3	Ros agigautea [図21]イノバラ [154ページ側注1]イノバラ	誤記である。	3-(2)	
69	73	側注4	モクレンはシモクレンを台木にすると小型になる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (モクレンの別名をシモクレンということがあり理解し難い。)	3-(3)	
70	76	図30	(b)写真	特定の営利企業の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
71	77	表3	培地の構成成分 [水]純水(脱塩蒸留水など) [糖]ショ糖(スクロール) [培地支持剤]培地支持剤 [その他]pH	誤りである。	3-(1)	
72	80	6 - 7	水分や養分を適度に吸収して生育した草花は、病害虫の被害を受けにくい。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「害虫の被害を受けにくい。」について理解し難い。)	3-(3)	
73	80	図1	腐植1)などの有機物 1)土壤中で動植物が不完全に分解してできる黒褐色の有機物のこと。養分の保持力が高まる、腐植から養分が出てくる、土の団粒化が促進される、pHの	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (腐植の説明が不十分であり有機物と腐植が同じものと誤解する。)	3-(3)	
			急激な変化を緩和する、などの効果がある。 [81ページ5行]有機物=腐植 [82ページ2行]有機物(腐植) [157ページ23行]腐植に富む			
			[192ページ19行]腐植が豊富に堆積した			
74	81	6 - 7	液相：毛管作用が働く狭いすきま(水) 気相：毛管作用が働かない粗いすきま(空気)	誤りである。	3-(1)	
75	81	12 - 13	土性は、粘土と砂の占める割合で分類される(図2)。 [図2]全体 [82ページ2行]土は、粘土や砂に有機物(腐植)が加わってできたものである	誤りである。 (土性の分類や土について)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
76	81	13 - 14	粘土の割合が多くなると、養分や水を保つ力は大きくなるが、排水性や通気性は小さくなる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (粘土の割合だけで決まると誤解する。)	3-(3)	
77	81	15	しょく壤土	誤記である。	3-(2)	
78	81	17 - 19	微生物の働きにより土の粒子が集まって団粒構造(図3)になる。	不正確である。 (微生物の働きだけが要因ではない。)	3-(1)	
79	82	4	土壌改良剤	誤記である。	3-(2)	
80	82	5 - 6	酸性土の改良には、苦土石灰を散布する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (苦土石灰だけと誤解する。)	3-(3)	
81	82	7	同じ草花を毎年同じ場所で栽培すると、いや地現象	不正確である。 (同じ草花)	3-(1)	
82	82	8	土壌伝染性病害虫 [12行]土壌伝染性病害虫	生徒にとって理解し難い表現である。 (「土壌伝染性病害虫」について理解し難い。)	3-(3)	
83	82	14 - 15	土壌中に高温の蒸気や熱水(70~80℃)を通して	生徒にとって理解し難い表現である。 (「熱水(70~80℃)」について理解し難い。)	3-(3)	
84	82	側注1	パーミキュライトやパーライトなどの人工用土がある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「人工用土」について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
85	82	側注3	ネマトーダ [図4]ネマトーダ [90ページ表6 ウイルス]センチュウ	表記が不統一である。	3-(4)	
86	82	側注7	クロルピクリン液(錠)剤	生徒にとって理解し難い表現である。 (農薬の種類名として理解し難い。)	3-(3)	
87	83	14	肥料成分の吸収は、生育が進むにつれて増加する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (吸収が増加することについて理解し難い。)	3-(3)	
88	83	図5	全体	生徒にとって理解し難い表現である。 ([82ページ20行]「17元素(図5)」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
89	83	図6	「成長の過程：生育中の養分の不足を補う」の記載位置	誤記である。 (記載位置が元肥にもかかっている。)	3-(2)	
90	83	表3	「葉肥」とよばれ、 「実肥」とよばれ、 「根肥」とよばれ、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (常によばれていると誤解する。)	3-(3)	
91	84	図9	シャワー：強い シリンジ：弱い	生徒にとって理解し難い表現である。 (シャワーとシリンジの違いについて説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
92	84	側注1	塩類濃度は、電気伝導度計(ECメータ)で測定する。電気伝導度(EC)は、土壌中にあるいろいろなイオンの総量を表す。	誤りである。 (電気伝導度計で塩類濃度の測定やイオンの総量を表すことはできない。)	3-(1)	
93	85	8 - 10	点滴かん水 メインパイプに細いチューブを何本もとってつけて、1鉢ごとにかん水する方法である(図11)。 [図11]全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての点滴かん水がこの方法であると誤解する。)	3-(3)	
94	85	13 - 14	毛細現象 [図12(b)]毛管現象	生徒にとって理解し難い表現である。 ([側注1]「毛細管現象ともよばれる。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
95	85	図12(a)	毛管作用で吸水する [図12(b)]吸水ひも：毛管現象で吸水する	生徒にとって理解し難い表現である。 ([15行]「給水ひも」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
96	85	側注2。	用土は、ピートモス主体にした通気性と保水性のよい土づくりが必要である。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (必ずピートモスを主体にする必要があると誤解する。)	3-(3)	
97	86	2 - 3	テンシオメータ(図13)を利用した自動化が進み、 [図13]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (図13を利用して自動化が進んだことについて理解し難い。)	3-(3)	
98	86	6	エブ アンド フロー [図14]エブ アンド フロー [161ページ図5]エブアンドフロー	表記が不統一である。	3-(4)	
99	86	10 - 20	養液栽培 [19～20行]また、点滴かん水装置を使った養液土耕栽培(かん水同時施肥栽培)もキクやカーネーションで普及している。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「養液栽培」に「養液土耕栽培」が含まれると誤解する。)	3-(3)	
100	86	15	ロックウール [図15]ロックウールスラブ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
101	86	図15	毛細管	生徒にとって理解し難い図である。 (毛細管で接続している理由について理解し難い。)	3-(3)	
102	89	表5	適用草花 [91ページ表8]適用草花 [91ページ表9]適用草花	生徒にとって理解し難い表現である。 ([90ページ17～18行]「病害虫と対象の草花により使用が限られる。枝ものと鉢もの花木は、樹木類として取り扱われる」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
103	89	表5	[バクトラゾール 適用草花]キク・ポインセチア・アザレア・ハイドラ ンジアなど	生徒にとって理解し難い表現である。 (「キク・ポインセチア・アザレア・ハイドラ ンジア」について理解し難い。)	3-(3)	
104	90	16 - 17	農薬には、それぞれに適用する病気や害虫が登録されており、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (適用する病気や害虫が登録されているだけで誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
105	91	表8	[いちよう病 クロロピクリンくん蒸剤]いちよう病	不正確である。	3-(1)	
106	91	表8	[1行3列]空欄 [うどんこ病 適用草花]樹木剤 [いちよう病]ダズメット分粒剤 [疫病 メタラキシル粒剤]疫病 [表9 1行3列]空欄	誤りである。	3-(1)	
			[表9 アブラムシ類 イミダクロプリド液剤]アブラムシ類 イミダクロプリド液剤 普通物 花き類・観賞植物 [表9 ナメクジ類 チオジカルブ粒剤]ナメクジ類 チオジカルブ粒剤 花			
			き類・観葉植物 [表9 コナガ DEP乳剤]コナガ カーネーション [表9 ハモグリバエ類]普通剤 (4か所)			
			[92ページ表10]水10mLあたりの薬剤量			
107	93	図4	全体 [105ページ図7]全体 [220ページ図3]全体 [220ページ図4]全体	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
108	93	側注1	日本のパイプハウスはplastic tunedである。	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
109	94	12	農P0	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
110	94	側注1	ガラス質	誤記である。	3-(2)	
111	95	3 - 5	施設は南北に長く建設される場合が多い。これは、朝夕の光線透過(図7)や風通しがよいためである。	生徒にとって理解し難い表現である。 (〔図7〕日中の光線透過が南北棟の方が低いこと及び〔16行〕[光の透過が悪くなり]の記述に照らして理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
112	95	19 - 20	側窓は、引き戸式の方が風通しがよいので	生徒にとって理解し難い表現である。 (何と比較して引き戸式の方が風通しがよいのかが理解し難い。)	3-(3)	
113	96	15 - 16	塩化ビニルフィルム(農ビ)ポリエチレン	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
114	96	側注1	スリップス [114ページ8行]スリップス [122ページ側注3]スリップス [131ページ11行]スリップス [156ページ9~10行]スリップス	生徒にとって理解し難い表現である。 ([90ページ表6]アザミウマ[91ページ表9]アザミウマに照らして理解し難い。)	3-(3)	
			[176ページ9~10行]スリップス [176ページ表4]スリップス [180ページ表9]スリップス [186ページ26行]スリップス [200ページ19~20行]スリップス			
			[232ページ20行]スリップス [238ページ21行]スリップス			
115	97	図10	熱伝達 (2か所)	不正確である。	3-(1)	
116	98	11	パッドアンドファン式冷房 [図15]パッドアンドファン式冷房	誤記である。	3-(2)	
117	100	16	IOT	誤記である。	3-(2)	
118	100	図20	1) コンピュータに基づき、コンピュータが判断・決定した結果	生徒にとって理解し難い表現である。 (「コンピュータに基づき」について理解し難い。)	3-(3)	
119	102	図1	全体 [102ページ表1]全体 [103ページ図2]全体 [172ページ図8]全体 [193ページ図10]全体	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(11)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[245ページ図1]全体 [248ページ表2]全体 [250ページ図8]全体			
120	103	表2	[花木・枝もの]モモ [151ページ19行]モモ	生徒にとって理解し難い表現である。 ([157ページ21行]「ハナモモ」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
121	104	図3	農産漁村文化協会 [105ページ図7]農産漁村文化協会	誤記である。	3-(2)	
122	105	側注1	切り花を収穫するときの咲きぐあい。 [107ページ10行]切り花を収穫する段階を切り前とよび、	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明が異なり理解し難い。)	3-(3)	
123	108	27	チオスルフォト銀陰イオン	誤記である。	3-(2)	
124	110	図1	全体	不正確である。 (合計値が出典と異なる。)	3-(1)	
125	111	側注1	低温反応や日長反応を弱めることを目的とした品種改良を生態育種という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「生態育種」について誤解する。)	3-(3)	
126	112	8 - 9	本葉展開後3対までは茎が伸長しないが、中温で育てると4対以降茎が伸長する。 [113ページ図6]本葉が4枚程度展開する	生徒にとって理解し難い表現である。 (本葉展開後3対と4対の違い及び対と枚の違いについて説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
127	114	図11	全体	生徒にとって理解し難い表現である。 ([18行]「2番花を収穫できる(図11)。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
128	114	表4	有機物 [116ページ表8]有機物 [117ページ11行]たい肥 [119ページ表14]有機物 [120ページ表16]有機物	生徒にとって理解し難い表現、表である。 ([83ページ]「肥料の成分と種類」の記述に照らして、有機物、たい肥、有機質肥料、ピートモス、バークの関係について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[128ページ表5]有機物 [130ページ10～11行]ピートモスやパークたい肥などの有機物を土壌容積の30～40%程度混ぜた通気・排水のよい用土を入れる。			
			[130ページ表7]有機物 [133ページ表9]有機物 [134ページ表12]有機物 [135ページ表14]有機物 [136ページ18行]有機物			
			[136ページ表16]有機物 [137ページ16行]たい肥などの有機物 [137ページ表18]有機物 [154ページ13～14行]ピートモスやパークなどの有機物を十分に投入すると			
			ともに、たい肥を1aあたり400kg施し、 [154ページ15～17行]油かすや骨粉などの有機質肥料を主体に、緩効性化成肥料を用いて、年6～10回程度に分けて			
			て施す(表4)。 [154ページ表4]有機物			
129	115	4 - 5	冷涼地では早春から夏まで多く栽培される(図13)。 [図13]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文に記述の「冷涼地」と図の「寒冷地」の関係について理解し難い。)	3-(3)	
130	115	表6	[早晩性]中性 (6か所)	生徒にとって理解し難い表現である。 (早晩性が中性ということが理解し難い。)	3-(3)	
131	116	8 - 9	高温期の植え付けでは、ハウスをしゃ光(40%)しておき、植え付け後、十分かん水する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (しゃ光(40%)についてしゃ光率か透過率かが不明確であること、及び、しゃ光を終了する時期の記載がないことより理解し難い。)	3-(3)	
132	116	表8	EC値<0.5のとき EC値>1.0のとき	不正確である。 (単位がない。)	3-(1)	
133	117	6	相対的な短日性	生徒にとって理解し難い表現である。 ([58ページ13～14行]「量的短日」に照らして理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
134	117	15 - 16	プラグ育苗	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
135	117	上段右	北アメリカ [138ページ上段左]北アメリカ [158ページ中段左]北米 [178ページ上段左]北アメリカ	表記が不統一である。	3-(4)	
136	119	7 - 9	エラータム系(図21) , 分枝性のグランディフロラム(シネンシス)系(図22) , ベラドンナ系がある(表13)。 [図22]シネンシス系 [表13]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (エラータム系, グランディフロラム系, シネンシス系, ベラドンナ系の関係について理解し難い。)	3-(3)	
137	119	図21	エターラム系	誤記である。	3-(2)	
138	120	8 - 10	長日条件では花芽分化が促進されるものの, 花芽分化後は短日で開花が早まる性質がある(図25)。 [図25]全体	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 (本文の記述と図の関係が理解し難い。)	3-(3)	
139	120	図25	ND:事前日長	誤りである。	3-(1)	
140	122	6 - 7	生産量が多く, なかでも, キクは切り花全体の約30%を占めている。	誤りである。 ([22ページ図5]) キクの出荷数量の割合と異なる。)	3-(1)	
141	122	図1	カーネーションのさし木苗 [123ページ図3]キクのさし木苗 [127ページ図12]さし芽のとり方 さし芽のさし方	生徒にとって理解し難い表現である。 ([71ページ側注2]草本植物の場合はさし芽という。) 「および[72ページ側注1]「さし木用に切り取った枝や芽をさし穂という。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
142	122	図2	[左図 その他]790100 () 内の%の数字	誤りである。	3-(1)	
143	123	図4	シロクジャク [図5]シロクジャク [図6]シロクジャク	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (作物名と誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
144	124	5	ポンポン咲き	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
145	126	9	電照開始時期は8月10日をめやすとし、 [図9(b)]全体	相互に矛盾している。 (本文と図の電照開始時期が異なる。)	3-(1)	
146	126	図9	[(a)夏秋ギクの電照栽培 6月出荷]無 摘心栽培 [図中]×	相互に矛盾している。 (図中の無摘心栽培に摘心の記号の×がある。)	3-(1)	
147	127	13 - 15	幅60cmのうねに、条間35cmとして株間 8cm間隔の2条植えとし、3.3m2あたり 75株植え付ける。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「3.3m2あたり75株」について理解し難い。)	3-(3)	
148	127	図12	冬至苗(b)のつくり方	生徒にとって理解し難い表現である。 (「(b)冬至芽苗」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
149	129	1	カーネーション [上段右 原産地]南ヨーロッパ [186ページ1行目]ポットカーネーション [186ページ上段左 原産地]地中海沿	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (原産地が異なること及びポットカーネーションと いう作物種があることについて誤解する。)	3-(3)	
			岸から西アジア			
150	129	図18	1回半摘心	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
151	130	側注1	ポリエチレンなどのシートにアルミを 蒸着し、70%以上の光を反射するフィル ム。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての反射フィルムがアルミを蒸着し、70%以上 の光を反射すると誤解する。)	3-(3)	
152	131	側注1	カリ肥料の割合が高いときに発生しや すい。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「カリ肥料の割合が高い」について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
153	132	上段左	paniculate [134ページ上段左]baeberton [142ページ上段左]Lilium ssp. [147ページ上段右]中央アフリカ [149ページ上段右]南アフリカ東部	誤りである。	3-(1)	
			[149ページ中段右]地中海沿岸 [157ページ下段右]rersica [158ページ中段左 学名]Hypericum オトギソウ科 [158ページ下段左]eucalptus			
			[183ページ上段右]リーガベゴニア hyemalis cheimautha [189ページ上段右]Chrysanthemum morifolium [189ページ中段右 英名]Rosa			
			[193ページ上段右]phalaenopsis [199ページ上段右 英名]cattlya [206ページ上段左 グスマニ ア]Guzumania×magnifica [206ページ上段左]チランシア			
			南アフリカ [206ページ上段左 ポエルマ ニイ]poelmannii [210ページ上段左 インドゴムノ キ]Eicus			
			[210ページ上段左 ベンジャミンゴム ノキ]熱帯南西アフリカ [212ページ下段左]Epipremnum aureum Bunt. [213ページ上段右]Nephrolepis.			
			Exaltata Schott シノブ科 [213ページ中段右]ワラビ科 熱帯アメリカ原産 [217ページ上段右]Dracaena			
			Cordyline キジカクシ科 アフリカ・熱帯アジア・オセアニアな ど [233ページ上段右]Brassica oleracea			
			var. acephala [235ページ上段右]semparflorens- cultorum [236ページ上段左]Polianths [236ページ上段左]Primula Julian			
			[238ページ上段左]Impatiens			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
154	134	16	コイア [153ページ側注6]ココヤシの果皮を細かく粉砕した培土のこと。 [165ページ表3 ココピート]ココナツ果実の殻(ヤシガラ)の繊維・粉末を	生徒にとって理解し難い表現である。 (「コイア」と「ココピート」の違いについての説明がなく、また「ココピート」の説明が異なることについて理解し難い。)	3-(3)	
			堆積して発酵させた有機物			
155	134	表10	フルーツケーキ5MIX ピッコリーニMIX [147ページ表3]オレンジ シベリア(ダリア) [148ページ表4]アンコナ(ダブル)	不正確である。	3-(1)	
			[178ページ表7 西洋アジサイ ガクアジサイ]全体 [210ページ図22]デコラ ロブスター [210ページ表5]デコラ ロブスター アサヒゴムノキ			
			フィリガジュマル フィリプミラ			
156	136	7	シネンシス [8~9行]ベリディフォルウム・スピア ・ラティフォリア・シネンシス	生徒にとって理解し難い表現である。 ([4~5行]ベリディフォルウム種やラティフォリウム種に照らして理解し難い。)	3-(3)	
157	136	側注1	後処理剤で糖を与え続けるとつぼみが開花する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「後処理剤」の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
158	138	図44	シュッコンアスターのおもな栽培計画例	誤りである。 ([13行]「シャクヤク」に照らして誤りである。)	3-(1)	
159	139	8 - 9	ブルモーサスナヌス	誤記である。	3-(2)	
160	139	19	品種 [表19]品種 [206ページ16行]品種 [208ページ12行]品種 [208ページ18行]品種	不正確である。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
161	140	7	ユリが突出して多い(図1)。 [図1]全体 [160ページ13行]一定の面積から高い収益を期待できる(図1)。	生徒にとって理解し難い表現, 図, 表である。 (本文の記述と図表の関係について理解し難い。)	3-(3)	
			[図1]全体 [160ページ16~17行]愛知県・埼玉県など大都市近郊に生産が多い(図2)。 [161ページ図2]全体			
			[161ページ10行]鉢と鉢の間隔を広げる(鉢間広げ)(図4)。 [図4]全体			
			[183ページ12行]表13のような種類と品種がある。 [表13]全体 [188ページ4行]質的短日植物である(
			図43)。 [図43]全体 [189ページ4~5行]近年は摘心をしなくても分枝性が高く商品性の高い省力			
			化品種が増えている(図47)。 [図47]全体 [194ページ10~11行]春・秋は60%, 夏は80%, 冬は30%程度しゃ光し, 湿度を			
			保つようにする(図12)。 [図12]全体 [224ページ22行]苗を選別する(図10)。			
			[図10]全体			
162	140	図1	2008年 栃木(2%)	誤りである。	3-(1)	
163	141	17	ユリは湿ったピートモスとともに [143ページ7~8行]湿ったピートモスとともに [143ページ16~17行]湿ったピートモスとともに	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (必ずピートモスでなければならぬと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
164	141	図3	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (破線と実線の違いについて理解し難い。)	3-(3)	
165	141	側注1	1988年以降オランダ産の多くの種類、 1999年以降ニュージーランド産のユリ とチューリップ、2000年以降ベルギー 産のユリ・ベゴニア、2002年以降チリ 産のユリが輸入可能になっている。	不正確である。 (最新の状況を反映していない。)	3-(1)	
166	143	19	-1.0~-1.5℃に氷温貯蔵④し、 [側注4]凍らない-1.0~-2.0℃で貯蔵 する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (貯蔵温度が異なることについて理解し難い。)	3-(3)	
167	146	19 - 20	サイトカイニン(ホルクロルフエニユ ロン)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (括弧内外の関係について誤解する。)	3-(3)	
168	146	側注2	つぼみが生育途中で枯死すること。 [153ページ側注2]花芽の発育がとまり 、花が咲かない現象	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ブラインド」についての説明が異なり理解し難 い。)	3-(3)	
169	148	4	種子島で球根が生産されている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (種子島のみで球根が生産されていると誤解する。)	3-(3)	
170	149	14 - 15	オランダから輸入された‘ブルーマジ ック’球根を使って、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (本文に記述される球根のみを使っていると誤解す る。)	3-(3)	
171	149	図26	高温貯蔵	生徒にとって理解し難い表現である。 (目的の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
172	150	12	湿地種は花色が白または緑で、	不正確である。	3-(1)	
173	151	図2	[その他]114262 ()内の%の数字	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
174	151	表1	出荷機 [エリカ 花色]桃	誤りである。	3-(1)	
175	152	図3	作型 [184ページ図34]作型 [186ページ図39]作型 [190ページ図51]作型	不正確である。	3-(1)	
176	153	1	バラ [上段右 原産地]ヨーロッパ・アジア [189ページ10行目]ミニバラ(ポットローズ) [189ページ中段右 原産地]ヨーロッ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (原産地が異なること及びミニバラ(ポットローズ)という作物種があることについて誤解する。)	3-(3)	
			パ, 中東, アジア			
177	154	11 - 12	オドラータ台② [側注2]低木性のバラの雑種の台木のこと。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (雑種の台木のことをオドラータ台という誤解する。)	3-(3)	
178	154	12	ミニプランツ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
179	154	17	苦土石灰で調整する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「苦土石灰」だけと誤解する。)	3-(3)	
180	154	表3	スイートオールド(SP SPウイット (オールド ビビアン!	誤りである。	3-(1)	
181	155	21 - 22	折り曲げた枝を棚上に仕立て、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「棚上」について理解し難い。)	3-(3)	
182	156	4 - 5	一部せん定折り曲げ法により全枝折り 曲げ法で	生徒にとって理解し難い表現である。 (「一部せん定折り曲げ法」と「全枝折り曲げ法」 の関係について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
183	158	上段左	[原産地]中国	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (他地域という説がないと誤解する)	3-(3)	
184	160	表1	エチラオール ベゴニア [169ページ図17(c)]エチラオール ベゴニア	誤記である。	3-(2)	
185	161	図2	出荷量(千本) [その他]9265 ()内の%の数字	誤りである。	3-(1)	
186	164	側注2	鉢土	生徒にとって理解し難い表現である。 ([7行]「鉢もの用土」との違いについて理解し難い。)	3-(3)	
187	164	側注3	播種用土 基土：ピートモス：パーライト：パーミキュライト=3：3：3 鉢上げ用土 基土：ピートモス：パーライト：パーミキュライト=3：3：3	生徒にとって理解し難い表現である。 ([13～14行]「鉢もの用土は、一般に播種から小苗の育苗・中苗の育成・仕上げ鉢の3段階に区分して配合する③」の記述に照らして理解し難い。)	3-(3)	
188	165	図8	(a)緩効性化成肥料 化学肥料	生徒にとって理解し難い表現である。 (「化成肥料」と「化学肥料」の違いについて説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
189	165	表3	[ピートモス]ミズゴケが泥炭化したもの	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「ミズゴケ」のみと誤解する。)	3-(3)	
190	166	8	ウニコナゾール	生徒にとって理解し難い表現である。 ([表5]「ウニコナゾールP」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
191	168	13	へご付け	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
192	170	図1	フクシヤ	生徒にとって理解し難い表現である。 ([表1 宿根草 花木]「フクシア」に照らして理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
193	172	17	寒冷地や温暖地において育苗や生産が行われる(図7)。	生徒にとって理解し難い表現である。 〔14～17行〕「シクラメンは冷涼な気候を好み、～夏季に冷涼な地帯では、品質がすぐれ開花が早まる。」および〔図7〕「寒冷地(標高600m)のシクラメン栽培」の記述に照らして温暖地が理解し難い。)。	3-(3)	
194	172	23	葉組みなどの労力もかかる(図8)。 〔図8〕全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (「葉組み」について説明がないこと及び参照先との関係について理解し難い。)	3-(3)	
195	173	表2	[普通系]バーバーク	誤記である。	3-(2)	
196	175	側注1	ジベレリン1ppm, ベンジルアデニン50～100ppmを混合	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (混合後の濃度は異なると誤解する。)	3-(3)	
197	175	表3	防除法	誤りである。	3-(1)	
198	176	8	作業前には必ず手を洗い土壌伝染性の病気を防ぐ。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (手を洗うだけで土壌伝染性の病気が防げると誤解する。)	3-(3)	
199	176	表5	全体	生徒にとって理解し難い表である。 (表であることが理解し難い。)	3-(3)	
200	181	図25	雌しべ 雄しべ	生徒にとって理解し難い図である。 (「雌しべ」と「雄しべ」について理解し難い。)	3-(3)	
201	181	表10	トピアリー	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
202	181	表11	植物成長調節剤	生徒にとって理解し難い表現である。 (〔89ページ15行〕「植物成長調整剤」に照らして理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
203	184	10 - 12	おもな病害虫として、～輪紋病～が発生しやすい。	生徒にとって理解し難い表現である。 (ペゴニアの病害虫として輪紋病が発生しやすいことについて理解し難い。)	3-(3)	
204	185	11	鉢ものとして生産されるおもな種類を図35～36に示す。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (図に示す2種類のみと誤解する。)	3-(3)	
205	185	23	病害虫防除 [24～27行]ポリアンサとジュリアンの出荷時期は、～15輪くらい花が開いてから出荷する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (項目名とその説明内容の関係について理解し難い。)	3-(3)	
206	188	12	ペラルゴニウム(ゼラニウム) [図45]花ゼラニウム	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ペラルゴニウム(ゼラニウム)」と「花ゼラニウム」の関係について理解し難い。)	3-(3)	
207	194	6	メリクロン苗をフラスコから取り土して順化し、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「フラスコから取り土して順化」について理解し難い。)	3-(3)	
208	194	図12	春夏秋冬の範囲 [図13]月の数字の表示位置	誤記である。	3-(2)	
209	195	18	京紙	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
210	196	14	シュートバルブ [199ページ側注1]シュートバルブ	誤記である。	3-(2)	
211	196	16	バルブ [196ページ図16]バルブ [199ページ図23]バルブ [202ページ18行]バルブ [202ページ25行]バルブ	表記が不統一である。	3-(4)	
			[202ページ26行]バルブ [201ページ21行]シュードバルブ [201ページ22行]シュードバルブ [202ページ8行]シュードバルブ			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
212	196	図16	リード [199ページ図23]リード [199ページ10行]リードバルブ [199ページ11行]リードバルブ	表記が不統一である。	3-(4)	
213	197	図19	2～3年次の加温期間	生徒にとって理解し難い図である。 (加温開始がなく理解し難い。)	3-(3)	
214	198	19 - 20	ポリダクトでラップする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ポリダクト」について説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
215	200	9 - 10	最低気温15～20℃で管理すると成長が早く、開花までの期間が短縮できる。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([52ページ11行]「植物体の量の増加を成長とよぶ。」及び最高気温の記述がないことより開花までの期間が短縮できることについて理解し難い。)	3-(3)	
216	201	11	ノビル系 赤・白・黄・褐色系の品種があり、 [201ページ14行]ファレノプシス系 白・赤・褐色系の品種があり、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (花色について誤解する。)	3-(3)	
217	203	24	森林に自生する春から秋は風通しをよくし	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (森林に自生する期間について誤解する)	3-(3)	
218	204	6 - 7	観葉植物が日本で生活のなかにとり入れられ始めたのは、1960年頃からである。	生徒にとって理解し難い表現である。 (古典園芸植物の存在から考慮すると1960年代頃が理解し難い。)	3-(3)	
219	204	17	植物分類上	生徒にとって理解し難い表現である。 ([205ページ表1]「植物分類学上」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
220	205	表1	ツルボラン アロエ ゴクラクチョウカ トラフバショウ	誤りである。 (科名について)	3-(1)	
221	205	表2	アナナス	生徒にとって理解し難い表現である。 ([表1]「アナナス類」に照らして理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
222	207	図12	7～8月出荷 5月出荷 12月出荷 6～9月出荷 12月出荷	生徒にとって理解し難い表現である。 (出荷と出荷期間が異なることについて理解し難い。)	3-(3)	
			図中の出荷期間			
223	207	図12	ファンシータ ポエルマニイ	誤記である。	3-(2)	
224	207	図12	アセチレン溶液処理	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
225	208	2 - 3	ドラセナとよばれているものは、ドラセナ属とコルジリーネ属に含まれ、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「ドラセナ」が両方の属に含まれると誤解する。)	3-(3)	
226	209	図19	天地を逆にさし木	生徒にとって理解し難い表現である。 (「天地」について説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
227	210	表5	ドラセナ類	誤りである。	3-(1)	
228	210	上段左	ベンジャミンゴムノキ [15行] ベンジャミン	表記が不統一である。	3-(4)	
229	211	20 - 21	ベンジャミンは50%しゃ光下で順化して出荷する。 [図29 ベンジャミン]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文と図の関係について理解し難い。)	3-(3)	
230	211	図29	[ベンジャミン]地植え記号2個 鉢上げ記号2個	生徒にとって理解し難い図である。 (地植えと鉢上げが2回あることについて理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
231	212	9	類上の花は肉穂花序(ニクスイカジョ)の上にある。	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
232	213	5	シンゴンゴニウム	誤記である。	3-(2)	
233	213	18 - 19	アモエナ種にはカミラのように草丈が低く、株立ちの品種があり、小鉢植えに適する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (アジアンタムにアモエナ種があると誤解する。)	3-(3)	
234	214	6 - 10	カンノンチク(観音竹)やシュロチク(棕櫚竹)は～。いずれも名前にチク(竹)がつくがれっきとした、ヤシである。葉がシュロに似ていることからこの名がついたとされる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (カンノンチクの名の由来について理解し難い。)	3-(3)	
235	215	1 - 9	その他の観葉植物 ガジュマル 全体	生徒にとって理解し難い表現である。 ([210ページ表5] 全体の記述に照らして理解し難い。)	3-(3)	
236	217	コラム	多肉植物のユーフォルビア・アガベ・アロエの仲間には、とげがあるものがあるが、これらはみな茎がとげ状になった「茎針」である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「これらはみな茎がとげ状になった」について理解し難い。)	3-(3)	
237	222	25	春植え花壇用と、	誤記である。	3-(2)	
238	223	15	鉢あげ [161ページ3行]鉢上げ	表記が不統一である。	3-(4)	
239	224	4	置肥 [83ページ13行]置き肥	表記が不統一である。	3-(4)	
240	224	10 - 11	成分の異なるものを予防的に用い、同じ農薬の連用は農薬への抵抗性を高めるので避ける。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「成分」と「農薬」の関係について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
241	230	3	用土のpH6前後を好む。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「好む」について理解し難い。)	3-(3)	
242	230	10	乾湿の差をつけたかん水をする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「乾湿の差」について理解し難い。)	3-(3)	
243	231	11 - 12	花の大きさにより、パンジー(ガーデンパンジー)(図4)とピオラ(タフテッドパンジー)(図5)に大別される	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てこのように大別されていると誤解する。)	3-(3)	
244	233	16	高性品種	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
245	237	11	鉢替え	生徒にとって理解し難い表現である。 ([図21]「鉢がえ」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
246	237	15	灰色カビ病	生徒にとって理解し難い表現である。 ([17行]「灰色かび病」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
247	238	コラム	マリーゴールドは土壤中のネグサレセンチュウやネコブセンチュウの密度を低減させる効果がある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのマリーゴールドで効果があると誤解する。)	3-(3)	
248	240	21	ピコティ [236ページ18行]覆輪	表記が不統一である。	3-(4)	
249	240	コラム	キバナコスモス チョコレートコスモス	生徒にとって理解し難い表現である。 ([中段左]Cosmos bipinnatusに照らして理解し難い。)	3-(3)	
250	241	10 - 11	シェードガーデン	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
251	242	14	ヒポスエステス [259ページ中段上]ヒポスエステス	誤記である。	3-(2)	
252	244	側注1	土地・労働・資本を生産の三要素という。これに知識を加えて、経営の四要素という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (経営の四要素について誤解する。)	3-(3)	
253	245	16 - 18	家族経営においては、家族経営協定が結ばれ、報酬や経営計画、経営の引き継ぎなどが家族合意のうえで決められる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (家族経営では必ず家族経営協定が結ばれていると誤解する。)	3-(3)	
254	245	図2	重量	不正確である。	3-(1)	
255	246	3	施設の減価償却期間は10～14年	不正確である。 (10～14年)	3-(1)	
256	247	14	Global-GAP [263ページ右段下]Global-GAP	誤りである。	3-(1)	
257	248	16 - 17	商品転送のような草花の流通	生徒にとって理解し難い表現である。 (「商品転送のような」について理解し難い。)	3-(3)	
258	248	側注3	エココンシューマ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
259	249	14 - 16	卸売市場経由割合はほぼ横ばいであり(図8)、輸入切り花を含めて80%をやや下回った程度 [18～20行]残りの20%の半分は輸入切り花が占め、その残りを農産物直売所	生徒にとって理解し難い表現である。 (「輸入切り花を含めて80%をやや下回った程度」と「残りの20%の半分は輸入切り花が占め」の関係について理解し難い。)	3-(3)	
			や仲卸・量販店・葬祭業者などへの直接販売、生産者のネット販売が占めている。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
260	249	20 - 24	卸売市場法では差別的取り扱いと受託拒否の禁止を定めているが、法改正にともない、商物一致の原則が緩和され、市場手数料の自由化、品質管理の高度化とともに、2018年の改正ではさら	生徒にとって理解し難い表現である。 (法改正が品質管理の高度化にどのようなつながるかについて理解し難い。)	3-(3)	
			なる規制緩和と自由化の方向へと進んだ。			
261	250	図8	図の縦軸と横軸	不正確である。 (縦軸と横軸の説明と単位がない。)	3-(1)	
262	251	14	良好な地球の状態を維持するには、地域住民と～地域のなかで～地域の自然環境や社会環境に調和した草花生産が行われなければならない。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「地球」と「地域」の関係について理解し難い。)	3-(3)	
263	251	側注1	草花を育てたり、生けたりする体験を通じて、こどもたちの教育に草花を取り入れる活動	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (花育の目的について誤解する。)	3-(3)	
264	252	18 - 20	農業者などによる障害者や高齢者、あるいは社会的に弱い立場に置かれた人々などの受け入れは、欧米諸国にもみられ、グリーン・ケア、あるいはケア・ファーミングとよばれている	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (農業者などにより受け入れることがグリーン・ケア、ケア・ファーミングであると誤解する。)	3-(3)	
265	253	7 - 9	身体・精神・知的・発達などの障害や自閉的特徴⑤についても一般的特徴を理解し、さらに一人一人の障害の個別的理解と対応が求められる。 [側注5]自閉的特徴は、人との関係、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「身体・精神・知的・発達などの障害」と「自閉的特徴⑤」の関係について理解し難い。)	3-(3)	
			情緒反応、変化への対応、恐れや不安、身体の使い方、模倣、物の扱い方、活動水準、感覚に対する反応、コミュニケーション(言語・非言語)などに現れる。			
266	253	側注3	注意・記憶・言語・計算などの機能に障害がある。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([8行]「知的」の側注として理解し難い。)	3-(3)	
267	253	側注6	人との目の合わせ方、距離の取り方などをさす。農作業では会話の能力が低くても作業をまねて取り組めるものは多い。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([9～10行]「人との関係性」の側注として理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 草花	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
268	253	側注 10	ジャスチャ	誤記である。	3-(2)	
269	258	左段中	インパチエンス……………238	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 3		メロンつる割れ病 ナス青枯れ病 キク青枯れ病 [120ページ表7]紋枯れ病 [120ページ表7]ごま葉枯れ病	不正確である。	3-(1)	
			[121ページ図17]ナス青枯れ病 [121ページ表8]もみ枯れ細菌病 [121ページ表8]青枯れ病 [129ページ表11]青枯れ病			
2	3		[左段]公益機能 [190ページ3行]公益機能 [192ページ1行]公益機能 [206ページ6行]公益機能	不正確である。	3-(1)	
3	13	5	重量	生徒にとって理解し難い表現である。 （〔側注1〕「質量」に照らして理解し難い。）	3-(3)	
4	14	15 - 16	代かきした湿地	生徒にとって理解し難い表現である。 （湿地）	3-(3)	
5	15	13 - 14	湛水という条件のため、作付けできる作物の種類が限られるが、雑草の発生量は畑に比べると少ない。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
6	20	表1	ポップ	誤記である。	3-(2)	
7	21	15 - 17	同じ作物においても、栽培や利用上の特性に基づいた単位によって分類がなされており、そのような単位のことを品種という。	不正確である。 （品種の説明が不正確である。）	3-(1)	
8	21	図2	英名：ブラシカ オレアセア	誤りである。	3-(1)	
9	23	11	採集直後の種子	誤記である。 （採集）	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	23	15 - 17	子葉より下の部分の胚軸が伸長して子葉が地上に出現する種子を地上発芽種子、子葉より上の部分の茎が伸長して子葉が土中に残る種子を地中発芽種子という	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての作物に子葉があり、地上発芽種子、地中発芽種子という誤解する。)	3-(3)	
11	23	図5	[イネ]果皮	生徒にとって理解し難い図である。 ([6行]「種皮から突き出る。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
12	24	図7	「節」と「節間」の指示位置	不正確である。	3-(1)	
13	26	側注2	種子から発芽して越冬し、開花・結実してその年のうちに枯死する植物。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (秋に発芽し翌年の春に結実・枯死する植物も二年生植物と誤解する。)	3-(3)	
14	26	表3	イネ(晩成品種)	誤記である。 (晩成)	3-(2)	
15	27	表5	イネ・コムギ・ニラ・ソバのデータ ネギ・インゲン・エンドウ・ダイズの 発芽最低温度のデータ	学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
16	28	図13	破線 2本	生徒にとって理解し難い図である。 (破線の意味するところについて理解し難い。)	3-(3)	
17	29	表6	[オーキシン類]広葉雑草 分裂組織の 異常活性化による枯死の誘導	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (オーキシン類を使った除草剤も植物成長調整剤という誤解する。)	3-(3)	
18	31	2	400～700nm程度の可視光線 [図15]約380nm 約780nm	生徒にとって理解し難い表現である。 (数字が異なることについて理解し難い。)	3-(3)	
19	31	図15	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
20	32	16 - 19	このようなしくみの光合成を行う植物をC3植物とよぶ。しかし、C3植物の光合成のしくみには、高温や光が強い環境において、光合成速度が減少したり、それ以上、増加しなくなったりする	生徒にとって理解し難い表現である。 (「しかし」が理解し難い。)	3-(3)	
21	32	図19	光の強さ[klx]	表記の基準によっていない。 (国際単位系でない。)	3-(4)	
22	35	14 - 16	鉄・マンガン・ホウ素・亜鉛・銅・塩素・モリブデンがある。これらの元素のことを微量必須元素という。 [表8]全体	不正確である。	3-(1)	
23	36	3 - 5	ケイ素・アルミニウム・ナトリウム・セレン・コバルト・ニッケル・ストロンチウム・ルビジウムがある。これらの元素のことを有用元素という。	不正確である。	3-(1)	
24	40	13 - 15	ブラウで耕起すると粗い土塊が残るので、ひき続き土塊を細かく砕いたうえで地面を平らにする必要がある。この作業を整地という(図31)。 [図31]耕起・整地作業	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (土塊を細かく砕くことも整地に含まれると誤解する。)	3-(3)	
25	40	図31	[右図]全体	生徒にとって理解し難い図である。 (進行方向、回転方向、土のつき方の関係について理解し難い。)	3-(3)	
26	41	15	中耕	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
27	41	16 - 17	播種後には通常2～3cmの厚さで覆土	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (種子の大きさに関係がないと誤解する。)	3-(3)	
28	42	5 - 7	最近では、育苗期間に残効性の高い殺虫剤や雑菌剤を施用することにより、本田期の農薬散布を省略することが多い。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (本田期の農薬散布を全く行わないことが多いと誤解する。)	3-(3)	
29	43	18	単為結果剤	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
30	43	21	側芽	誤りである。	3-(1)	
31	45	3 - 4	同じ場所に同じ作物を連続して栽培することを連作という(図37)。[図37]●と○はそれぞれ同じ作物を表す。	不正確である。 (同じ作物)	3-(1)	
32	45	6	マメ科作物の利用は土壌の肥沃化に有効である。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (マメ科作物の利用は必ず土壌の肥沃化に有効であると誤解する。)	3-(3)	
33	45	18 - 34	カバークロープ・リビングマルチ 主作物の休閑中に、～などを目的として栽培される、それ自身は収穫対象とならない作物をカバークロープという。～主作物の栽培期間の全部あるいは一	生徒にとって理解し難い表現である。 (「カバークロープ」, 「リビングマルチ」, 「天敵温存植物」, 「バンカー植物」, 「コンパニオン植物」, 「グランドカバー植物」, 「バンカープランツ」の関係について理解し難い。)	3-(3)	
			部期間に、主作物のうね間に栽培される作物をリビングマルチという(図38)。オオムギやコムギ、ライグラスなどがよく使われる。 [115ページ19～20行]天敵昆虫の餌や			
			産卵場所を提供する天敵温存植物(インセクタリアープラント) [185ページコラム]天敵を飼育するための植物をバンカー植物といい、 [203ページ14～21行]カバークロープ			
			主作物の休閑中にカバークロープ(図19)を作付けすることで～物性改善などがはかれる。リビングマルチ カバークロープと同様の効果が期待できるが、カバークロープは主作物			
			を植える前にとり除かれるのに対し、リビングマルチは主作物のうね間に作付けることで主作物の生育期間にも植生を維持する点が異なる。 [209ページ6行]果樹園にカバークロー			
			プを作付け、 [209ページ30行]水田・果樹園とも、 他のカバークロープでの調査 [230ページ25行]天敵温存植物 [232ページ表1 コンパニオン植物な			
			どの栽培]コンパニオン植物 オオムギの栽培(うね間など)。 マリーゴールドの栽培(うねの肩部、株元など)。 ソルガムの栽培(圃場の周囲)。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[232ページ表1 周辺植物の管理] グランドカバー植物 [233ページ表2 天敵の発生状況の把握と判断]パンカープランツ			
34	48	21 - 23	日射強度は、単位時間・単位面積あたりの日射エネルギーの量(W/m ²)として表され、500nm付近で強い。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (日射強度と波長別日射強度の関係を誤解する。)	3-(3)	
35	48	側注1	二酸化炭素0.03%である。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([51ページ]図4に照らして理解し難い。)	3-(3)	
36	49	4 - 6	日本の日照時間は1500～2200時間(アメダスの平均は1850時間)とされており、世界平均の2500時間よりも短い。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
37	49	図1	波長別日射強度(W・m ⁻²)	不正確である。 (W・m ⁻²)	3-(1)	
38	50	1	降水量 [82ページ6行]降雨量 [82ページ7行]降雨量	表記が不統一である。	3-(4)	
39	51	図4	全体	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
40	52	10 - 15	地表から15～35km上空に分布しているオゾン(O ₃)を多く含む大気層をオゾン層という。～オゾン濃度が極端に低い領域(オゾンホール)が南極や北極の上空で観察されている(図6)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (参照先との関係について理解し難い。)	3-(3)	
41	52	13 - 14	フロンなどの化学物質によってオゾン層が破壊され、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのフロンでオゾン層が破壊されると誤解する。)	3-(3)	
42	52	18 - 19	オゾンホールは2003年の最大値以降は縮小しているとされている	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
43	54	5	南北の気温の差は年平均で14℃にもなる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
44	54	図9	全体	生徒にとって理解し難い表現である。 （[4行]「気候は亜熱帯から亜寒帯までまたがり」に照らして理解し難い。）	3-(3)	
45	54	側注2	オホーツク海気団は、南と北に分かれた気流がオホーツク海付近で合流し、オホーツク海が低温になることにより発生し、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （オホーツク海気団について誤解する。）	3-(3)	
46	55	5	やがて梅雨前線が北上し、小笠原気団の勢力が強くなり、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （梅雨前線が北上することで小笠原気団の勢力が強くなると誤解する。）	3-(3)	
47	55	図10	温暖前線からまわりこんでいる寒気の矢印の向き	生徒にとって理解し難い表現である。 （矢印について理解し難い。）	3-(3)	
48	56	11	亜熱帯に属する沖縄県や鹿児島県、宮崎県などでは、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （鹿児島県、宮崎県全域が亜熱帯に属すると誤解する。）	3-(3)	
49	56	図12	滋賀県 近衛茶	誤りである。	3-(1)	
50	59	31	過温を防止したりする。	生徒にとって理解し難い表現である。 （「過温」について理解し難い。）	3-(3)	
51	60	7 - 8	日本に上陸するのは9月が最も多い。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
52	60	18 - 19	風水害などの気象災害では、農業災害補償制度①により、被災農家は補償を受けられることができる。 [側注1]「農業災害補償法」に基づいて～掛け金の一部は国が支払っている	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （現行の制度について誤解する。）	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
53	60	図22	[右上の図]下向き矢印2本	生徒にとって理解し難い図である。 (矢印の意味について理解し難い。)	3-(3)	
54	61	9 - 11	風が弱い条件で、晴天の夜間に地面から上空への熱の放出が増加すると、地面付近の大気は0℃以下になる(放射冷却)ことがある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (放射冷却について誤解する。)	3-(3)	
55	61	20	凍霜害の対策(防霜)には、1)天気予報の利用、	生徒にとって理解し難い表現である。 (天気予報を利用してどのように凍霜害の対策を行うかが理解し難い。)	3-(3)	
56	61	側注1	農耕地の地面がもち上がることによる被害は凍上害とよばれる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (農耕地の被害だけが凍上害とよばれると誤解する。)	3-(3)	
57	63	18	単年性作物	生徒にとって理解し難い表現である。 ([26ページ17行]「一年生植物」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
58	63	側注1	次々と発生する積乱雲群が数時間にわたって同じ場所に停滞することによって、長さ50～300km、幅20～50km程度の線状に伸びた強い降水をとまなう雨域。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (停滞することだけでつくり出されると誤解する。)	3-(3)	
59	63	側注2	日本では1994年の5月以降に629000haに及ぶ全国的な干害に遭遇したが、2001年以降大きな干害は発生していない。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
60	64	5	対策としては、1)大雪の気象情報収集	生徒にとって理解し難い表現である。 (大雪の気象情報収集でどのように雪害の対策を行うかが理解し難い。)	3-(3)	
61	66	2	[右段]第一種型冷害	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
62	66	2 - 5	[右段]イネの作況指数(平年収量を100としてその年の収量を表す指数)は、北海道は全国平均と同じ74であったが、	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
63	66	8 - 9	[右段]水稻の被害額は全国で4690億円に上った。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
64	68	16 - 17	生物の遺体や排泄物は土壤中で起こるさまざまな化学反応によって分解され、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (純粋な化学反応だけで分解すると誤解する。)	3-(3)	
65	68	20 - 21	ひとにぎりの土壌の中に数千種類の生物が生活しているといわれる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
66	69	図1	河川による堆積物(堆積岩)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (括弧内外の関係について誤解する。)	3-(3)	
67	72	図4	団粒構造(右上)・単粒構造(右下)写真	生徒にとって理解し難い表現、写真である。 (団粒構造と単粒構造であることが理解し難い。)	3-(3)	
68	74	表1	[赤黄色土 樹園地]60 [褐色森林土 樹園地]108	誤りである。	3-(1)	
69	75	31 - 33	開墾直後の農地では、窒素源としてアンモニアを好むソバや陸稲がよく育ち、しだいに土壌が好氣的になると硝酸態窒素を好むムギ類がよく育つようになる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ソバが窒素源としてアンモニアを好むと誤解する。)	3-(3)	
70	76	図8	粘土35%、シルト20%、砂45%の土は、破線のように軽しよく土に相当する。 図中の破線	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (破線の示す意味について理解し難い。)	3-(3)	
71	77	側注2	水の体積を水と固体の体積で割った値	誤りである。 (「水と固体の体積」)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
72	78	図11	固相 土の粒子(粘土・砂)	生徒にとって理解し難い表現である。 ([16行]「固体(土壌鉱物と有機物)」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
73	80	16 - 17	カリウムを例にとると、～粘土鉱物の表面に保持される。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([14-15行]「次に説明する～粘土鉱物や有機物の表面に保持される。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
74	80	側注1	ミリジーメンズ毎センチメートル (mS/cm) [95ページ表7]0.3mS(ミリジーメンズ) 以下 0.1mS以下	表記の基準によっていない。 (国際単位系でない。)	3-(4)	
			[224ページ2行]mS(ミリジーメンズ)/cm			
75	81	17 - 18	火山灰に由来する土壌は粘土鉱物としてアロフェンを多量に含む	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (火山灰に由来する土壌の全てがアロフェンを多量に含むと誤解する。)	3-(3)	
76	82	4	pH ピーエイチ	生徒にとって理解し難い表現である。 (初出にルビがないことが理解し難い。)	3-(3)	
77	82	7 - 9	降雨量の多い日本は、カルシウムやマグネシウムのような塩基が雨で溶脱しやすい。塩基が溶脱すると、粘土鉱物や有機物の陽イオン交換反応により、かわりに水素イオンが保持されること	生徒にとって理解し難い表現である。 (塩基の溶脱、陽イオン交換反応、水素イオンの保持の関係について理解し難い。)	3-(3)	
			になる。			
78	84	8 - 9	微生物の死骸として土の中に長期にわたってとどまる。この状態の窒素有機態窒素という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (有機態窒素は微生物の死骸のみに由来すると誤解する。)	3-(3)	
79	84	12	温帯では1年間に有機態窒素の1～4%が分解される	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
80	84	15 - 19	有機化によって生じたアンモニウムイオンは～このことを窒素の有機化という。 [図19]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文記述と図の関係について理解し難い。)	3-(3)	
81	84	図19	全体	誤りである。 (「硫酸イオン」及び「共生的窒素固定」の矢印について)	3-(1)	
82	85	23	田水 [図20]田面水	表記が不統一である。	3-(4)	
83	86	18 - 19	肥沃土管理	生徒にとって理解し難い表現である。 ([1行]「土壌肥沃度の管理」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
84	87	2 - 5	窒素・リン・カリウム・カルシウム・マグネシウム・硫黄・鉄・マンガン・ホウ素・亜鉛・銅・モリブデンおよび塩素を土壌から吸収しなければならない。	不正確である。 (必須元素について)	3-(1)	
85	87	11 - 12	残りの元素(鉄・マンガン・ホウ素・亜鉛・銅・モリブデン・塩素)	不正確である。 (「残りの元素」について)	3-(1)	
86	87	29 - 32	窒素は元素として窒素の含有量が表示されるが、リンとカリウムについては元素としての含有量をそれぞれ五酸化リン(P205)と酸化カリウム(K20)の含有量に換算して表示するのが慣習となっている。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([28～29行]「主要な肥料成分の含有率」と「元素として窒素の含有量」, 「元素としての含有量」, 「五酸化リン(P205)と酸化カリウム(K20)の含有量」の関係について理解し難い。)	3-(3)	
			っている。			
87	87	31	五酸化リン(P205)	不正確である。	3-(1)	
88	89	11 - 12	元素としての窒素の含有量は21% [14～15行]元素としての窒素の含有量は25% [17～18行]元素としての窒素の含有量は25%	誤りである。 (含有量を%で示すこと)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[20～21行]元素としての窒素の含有量は13% [25行]元素としての窒素の含有量は32～34% [28行]元素としての窒素の含有量は			
			46% [32行]元素としての窒素の含有量は20～21%			
89	89	26	吸収後の土壌のpHは変化しない。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (pHが全く変化しないと誤解する。)	3-(3)	
90	89	34	毒性があり、農薬としても使われる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「毒性」と「農薬」の関係について誤解する。)	3-(3)	
91	90	23	く溶性カリを酸化カリウム換算で20%含む。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのケイ酸カリに20%含まれると誤解する。)	3-(3)	
92	90	表3	全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (可溶性リン酸, 水溶性リン酸, く溶性リン酸の合計がリンの割合であること及び同一肥料名では全て同じ割合であることと誤解する。)	3-(3)	
93	92	9 - 10	有害物質を含む易分解性有機物を完全に微生物分解させる	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (易分解性有機物が完全に分解されると誤解する。)	3-(3)	
94	92	9	易(えき)分解性有機物	誤りである。 (ルビ)	3-(1)	
95	92	表5	全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (同一肥料名では全て同一の割合と誤解する。)	3-(3)	
96	92	表5	おもな堆肥の成分量 窒素全量 リン酸全量 カリ全量	誤りである。 (成分量や全量を%で示すこと)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
97	93	9 - 10	日本の畑土壌の半分以上を占める黒ボク土	相互に矛盾している。 （[74ページ表1]「日本の畑の47%を占める」と矛盾する。）	3-(1)	
98	95	表7	山中式硬度	不正確である。	3-(1)	
99	97	8	熔成リン酸	誤記である。	3-(2)	
100	98	15 - 18	[右段]3haの水田に30t(10aあたり1t)の稲わら堆肥を施用したときに貯留される炭素量は、日本の家庭1世帯が1年間に排出する炭素量に相当するという。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
101	100	6	その叢間には	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
102	100	17 - 18	有害生物のために、世界の農業生産の3~4割が損失しているといわれる。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
103	103	側注1	最も古い昆虫は約3億5千万年前に誕生したとされる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
104	104	表1	全体	生徒にとって理解し難い表である。 （[103ページ]8~10行の記載に照らして理解し難い。）	3-(3)	
105	105	表2	ユリ科野菜(ネギ類)	誤りである。 （「ユリ科」）	3-(1)	
106	108	7	吸害	誤記である。	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
107	108	図7	[ネコブセンチュウ]写真	誤りである。 (ネコブセンチュウの写真ではない。)	3-(1)	
108	109	8 - 10	日本の国土は南北に長く～悪環境は定期的におとずれる①。 [側注1]地球の自転による～光周性である(→p.26)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文と側注1との関係について理解し難い。)	3-(3)	
109	110	2 - 3	1頭の雌の産卵数が少ないものの、世代交代が早く、繁殖を繰り返すものも多い①。 [側注1]一般的な昆虫の生涯産卵数は10～1万個であるが、シロアリなどの	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文と側注1との関係について理解し難い。)	3-(3)	
			社会性昆虫には1億個以上に達する種もある。			
110	110	図9	夏密生植物	生徒にとって理解し難い表現である。 (「夏密生植物」について理解し難い。)	3-(3)	
111	113	側注1	この細菌はカイコの病原細菌として発見された。	不正確である。 (発見の経緯について不正確である。)	3-(1)	
112	114	図13	ボイラーで沸かしたお湯をシートに流し、土壌に注入する。	生徒にとって理解し難い表現、写真である。 (「シートに流し、土壌に注入する。」が理解し難い。)	3-(3)	
113	115	11 - 12	海外から導入した天敵資材は使用できない。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (例外がないと誤解する。)	3-(3)	
114	116	6 - 7	交互に使用するローテーション散布を行う。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (交互に使用することをローテーションという誤解する。)	3-(3)	
115	116	26	使用方法を守ることが大切である。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (使用方法を守ることが義務でない誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
116	117	表6	[IRACコード]1 4 3 22 2 9 7 12 21 25 [IRACコード1 おもな成分名]フェニ トロチオン カルバリル [IRACコード14 おもな成分名]カルタ	不正確である。	3-(1)	
			ップ [IRACコード3 系統]ピレスロイド系 [IRACコード2 おもな成分名]など [IRACコード9 おもな成分名]など [IRACコード12 おもな成分名]酸化フ			
			エンブタスズ [IRACコード25 おもな成分名]など			
117	118	11	核膜をもつ真核生物 [12行]核膜のない原核生物 [図15]核膜をもつ 核膜をもたない	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (核膜の有無が基準と誤解する。)	3-(3)	
118	119	4 - 5	発病した植物には、さまざまな症状(病徴)が現れ、菌糸や菌核などが肉眼でも観察できることがある。 [125ページ12~14行]うどんこ病の白い粉(分生孢子)のように、病原体の集	生徒にとって理解し難い表現である。 (「病徴」と「標徴」の違いについて理解し難い。)	3-(3)	
			合体が観察されることがあり、これを標徴とよぶ。			
119	119	6 - 7	植物体内での感染を拡大する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「感染を拡大する」について理解し難い。)	3-(3)	
120	120	表7	[果樹 黒とう病]欧州品種	不正確である。	3-(1)	
121	121	表8	[白葉枯病]雑草から水を介して感染する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての雑草から感染すると誤解する。)	3-(3)	
122	124	3 - 5	わが国ではおよそ7000種もの植物病が報告されている。このうち約80%が菌類によって発病し、残りの約20%が細菌、ウイルス、ファイトプラズマなどによって発病する。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
123	125	11 - 12	菌類や細菌による病気では発病が進むと、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「発病が進む」について理解し難い。)	3-(3)	
124	126	6	3)色彩ともに	誤記である。	3-(2)	
125	126	図23	[左下]カンキツかいよう病	誤りである。 ([図タイトル]「おもな菌類病(左)」に照らして)	3-(1)	
126	128	2 - 3	植物病の防除の基本は、病原体の生活環に適した環境条件を改善することである。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「病原体の生活環に適した環境条件を改善する」について理解し難い。)	3-(3)	
127	129	表11	全体	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
128	131	図25	効果は大きいコストや環境負荷も大きい それぞれの効果は小さいコストや環境負荷も小さい	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (効果とコストの関係について誤解する。)	3-(3)	
129	132	5	殺菌剤に抵抗性を獲得した病原体	生徒にとって理解し難い表現である。 ([側注1]「耐性菌」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
130	133	表12	[FRACコードM 系統]グアニジン，キノン [FRACコードM おもな成分名]クロロタロニル(TPN) [FRACコード32 作用機構]その他	不正確である。	3-(1)	
			[FRACコード32 系統]その他 [FRACコード32 おもな成分名]ヒドロキシソキサゾール [FRACコード11 系統]QoI殺菌剤(ストロビルリン系)			
			[FRACコード29 作用機構]その他 [FRACコード29 系統]その他 [FRACコード9 おもな成分名]など [FRACコード12 おもな成分名]フルジオキシニル			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[FRACコード6 系統]有機リン系 [FRACコード6 おもな成分名]EDDP(エジフェンホス), IBP(イプロベンホス) [FRACコード3 系統]DMI殺菌剤(脱メチル化阻害剤, イミダゾール類, トリ			
			アゾール類など) [FRACコード17 おもな成分名]など [FRACコード16.1 系統]MBI-R [FRACコード16.1 おもな成分名]など [FRACコード16.2 系統]MBI-D			
			[FRACコード16.2 おもな成分名]など			
131	136	表14	[畑地雑草 一年生雑草 広葉雑草]イノコズチ	誤りである。	3-(1)	
132	138	表15	3,910	表記の基準によっていない。 (国際単位系でない。)	3-(4)	
133	139	2	土壌表面にしていることを知るのによい。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「いることを知る」について理解し難い。)	3-(3)	
134	139	9	雑草の種子は、完熟して親株から離れた直後	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての雑草の種子が完熟して親株から離れると誤解する。)	3-(3)	
135	139	11	完熟から一次休眠がさめるまでの過程を後熟という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「後熟」について誤解する。)	3-(3)	
136	139	19 - 20	種子は休眠にはいたり、休眠からさめたりを1年のあいだに周期的に繰り返す(図32),	誤りである。 (「図32」について)	3-(1)	
137	139	図30	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (未採取種子で全てが100%となることについて理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
138	141	23 - 25	ある植物が環境中に放出する化学物質によって、ほかの植物が害を受けることをアレロパシー(他感作用)といい、[203ページ10～12行]対抗植物には、有害生物の発生をおさえたり生息密度	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (他感作用、アレロパシーについて誤解する。)	3-(3)	
			を低下させたりする他感作用(アレロパシー)(→p. 141)が認められる。			
139	141	28 - 29	作物にもアレロパシー物質を放出するものがあり、連作障害の原因の一つになる。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([24～25行]「ほかの植物が害を受けることをアレロパシー(他感作用)といい」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
140	141	30	農作業の妨害 [32～34行]また、病害虫の繁殖場所や越冬場所となったり、寄主となったりして、病害虫の発生を助長することがある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (農作業の妨害となることについて理解し難い。)	3-(3)	
141	142	8 - 11	畑でメヒシバを放任した試験では、トウモロコシでは減収が10%程度にすぎなかったのに対して、ダイズで60%、ラッカセイでは90%以上の減収が生じたという報告もある。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
142	142	11 - 14	イネでは、収穫時まで雑草防除を行わないと平均41%の減収(最大92%、調査数114)、移植後40日間だけ除草しなかった場合でも平均24%の減収(最大66%、調査数100)という報告がある。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
143	142	20 - 23	移植水稻では、除草必要期間は寒冷地で50日前後、暖地では35日程度である。これは寒冷地のほうが雑草の発芽がふぞろいで長期にわたるためである。直播栽培ではさらに10日程度長い期間	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			が必要である。			
144	142	21 - 22	これは寒冷地のほうが雑草の発芽がふぞろいで長期にわたるためである。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (雑草の発芽のふぞろいが主因と誤解する。)	3-(3)	
145	142	23 - 24	畑(関東地方)では、トウモロコシで30日、ダイズで30～35日、ラッカセイで70日程度とされる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
146	144	12 - 14	スズメノテッポウに着生していた細菌の中から除草効果のあるものが分離されて、スズメノテッポウの除草用に実用化されている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (スズメノテッポウから分離され、今も実用であると誤解する。)	3-(3)	
147	144	表17	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
148	144	表17	おもな除草剤 [アミノ酸合成阻害]イマザスルフロン [脂質合成阻害]ベンチオカーブ	誤りである。	3-(1)	
149	145	14 - 15	雑草の種類によって効果が異なる除草剤を選択性除草剤といい、すべての雑草に効果のある除草剤を非選択性除草剤という。	誤りである。 (選択性除草剤と非選択性除草剤について)	3-(1)	
150	145	表18	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
151	148	14 - 16	戦前の日本の稲作においては除草が労働時間の多くを占めていたが、戦後に実用化された除草剤によって、労働時間は25分の1以下に軽減された(図41)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (参照先との関係について理解し難い。)	3-(3)	
152	148	18 - 19	連作ができなかった作物も、土壌消毒剤の利用によってかなりの程度に連作が可能となってきた。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「かなりの程度」について理解し難い。)	3-(3)	
153	148	図41	全体	最新のものを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
154	148	図41	31.1 26.8 年度	誤りである。	3-(1)	
155	152	3 - 4	製剤のまま散布する剤型には、粉剤や粒剤、フロアブル剤やジャンボ剤などがある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのフロアブル剤が製剤のまま散布すると誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
156	152	図44	全体	生徒にとって理解し難い写真である。 （[11行]「育苗箱に粒剤（おもに殺菌殺虫剤）を処理する」に照らして理解し難い。）	3-(3)	
157	153	15 - 16	農薬散布は、風雨などの影響が少ないため、ドリフトしにくく、薬剤の滞留時間が長くなる	生徒にとって理解し難い表現である。 （「農薬」と「薬剤」の違いについて理解し難い。）	3-(3)	
158	154	4 - 6	ナミハダニやコナガのように繁殖力の大きな生物で著しく、これら2種では90種類をこえる農薬に対する抵抗性が報告されている。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
159	154	6 - 8	農薬に対する抵抗性が報告されている。薬剤抵抗性の発達は、有害生物の個体群にもともと存在している「薬剤に強い個体」が、薬剤処理後も生き残り	生徒にとって理解し難い表現である。 （「農薬」と「薬剤」の違いについて理解し難い。）	3-(3)	
160	154	24 - 27	同一の農薬だけを繰り返し使う連用を避けることが重要である。また、有効成分が異なっても、作用機構が類似した農薬は交差抵抗性が生じる可能性がある。したがって、作用機構の異	生徒にとって理解し難い表現である。 （「農薬」と「薬剤」の違いについて理解し難い。）	3-(3)	
			なる複数の薬剤をローテーションで使用する事が望ましい。			
161	155	9 - 11	時間の経過にともなって、農薬の大部分はさまざまな作用を受けて分解するが、その過程で人の健康に影響を及ぼす危険性がある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （必ず流出し、分解過程の審査がされていないと誤解する。）	3-(3)	
162	155	14	暴露 [190ページ図1]曝露（2か所）	表記が不統一である。	3-(4)	
163	155	コラム	コラム内に記載の各DDD濃度	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
164	156	33	[コラム 左段]予防原理	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
165	156	18 - 20	[コラム 右段]生態系にどのような影響を与えているかを解明するには、いよいよ長い年月が必要となる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「いよいよ長い年月」について理解し難い。)	3-(3)	
166	157	4 - 5	使用する農薬は農薬取締法によって日本で登録された登録農薬でなければならない。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (特定農薬に関する説明がない。)	3-(3)	
167	157	7 - 9	それらの事項を遵守しないと、収穫物における農薬の残留が基準値をこえて、出荷停止や回収となる恐れもある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (作物に対する害がないと誤解する。)	3-(3)	
168	158	1 - 2	植物防疫協会では、農薬を使用したら帳簿に記録するよう勧告している。 [7~8行]植物防疫協会では、以下のような保管方法を勧告している。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (法令による規制がないと誤解する。)	3-(3)	
169	159	コラム	[右段]たとえば、広葉雑草を選択的に殺す選択的除草剤が普及したことにより、イネ科草本が重要な雑草となった。これらを二次的有害生物というが、二次的有害生物の出現も誘導多発生に	生徒にとって理解し難い表現である。 (「重要な雑草」, 「二次的有害生物」について理解し難い。)	3-(3)	
			含めることがある。			
170	164	表20	全体	学習上必要な出典が示されていない。 (タマネギとダイズの出典について)	2-(10)	
171	165	6 - 8	海外では「ワタの総合的有害生物管理」「キャベツの総合的有害生物管理」といった、作目ごとの技術体系が構築されてきている国もある。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
172	166	19 - 22	[コラム 左段]1940年の末には、このような問題を回避するうえで化学的防除を生物的防除と組み合わせて使うことが有効であることがカリフォルニアの研究者によってあきらかにされた	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
173	170	3 - 4	現在商用的に栽培されているものはリーフレタスなどの葉菜類のみである	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (現状について誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
174	171	13	被覆材 [表1]被覆材 [177ページ2, 5, 6, 8行]被覆資材	表記が不統一である。	3-(4)	
175	172	コラム	農業全体の二酸化炭素排出量のうち、約半分が施設園芸に由来すると報告されている。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
176	173	5	フオーターカーテン [図8]フオーターカーテン	誤記である。	3-(2)	
177	173	図8	全体	生徒にとって理解し難い写真である。 (図タイトルと写真の関係について理解し難い。)	3-(3)	
178	176	4 - 6	イチゴやバラの場合，株元の茎頂分裂組織に近いところを冷却することにより，花芽分化を早めることができる。また，温めることにより，生育を促進する	生徒にとって理解し難い表現である。 (バラの株元の茎頂分裂組織及び冷却により分化が早まることについて理解し難い。)	3-(3)	
179	176	8 - 10	温室・ハウス内で作物が繁茂している場合，絶対湿度は施設内のほうが施設外よりも高い。これは施設内では施設外より作物からの蒸散が多くなるからである。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (施設内外の絶対湿度の差の主因について誤解する。)	3-(3)	
180	177	15 - 18	ハウス・温室内の光強度を下げるためには，～展張する場合がある。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([11行]「日長の管理」との関係について理解し難い。)	3-(3)	
181	177	22 - 25	また，夜間は，作物の呼吸による二酸化炭素の放出により，施設外より施設内のほうが高くなる。これは，施設内外の空気交換がおさえられていることにより，施設外から施設内への二酸化	誤りである。 (「施設外から施設内への二酸化炭素の流入が少なくなる」について)	3-(1)	
			炭素の流入が少なくなるからである。			
182	178	6 - 7	夜間には，施設内の地温のほうが露地の地温よりも高くなっている(図14)。 [図14]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文記述と図の関係について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
183	179	18 - 20	わが国の養液栽培では、栽培面積の最も大きい作物はトマトで、ついでイチゴであり、ホウレンソウ、ミツバ、葉ネギ、バラなども大きい。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
184	179	図16	全体	生徒にとって理解し難い写真である。 (何が作付けされているかについて理解し難い。)	3-(3)	
185	180	1	固定培地耕 [3行]固定培地耕 [図18]固定培地耕 [237ページ左段中]固定培地耕	誤りである。	3-(1)	
186	180	7 - 8	湛液型水耕は、栽培ベッドとタンクの両方または片方に多量の培養液を湛えポンプで循環させる方式である。 [図19]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文記述と図の関係について理解し難い。)	3-(3)	
187	180 - 181	17 - 1	培養液には16の必須元素のうち、酸素(O)、水素(H)、炭素(C)を除いた13元素が含まれる。	不正確である。	3-(1)	
188	181	6	第一リン酸アンモニウム	不正確である。	3-(1)	
189	183	図25	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
190	183	図25	その他の管理 2.5~3.5mL/m ² /(J/cm ²)，晴天日廃液率30~40% (給液量・頻度)多量小頻度灌水，日水分差を大きくする 少量多頻度灌水，日水分差を小さくする	生徒にとって理解し難い表である。 (「その他の管理」と「給液量・頻度」の関係について理解し難い。)	3-(3)	
191	183	図25	トマトのロックウールによる長期どり栽培	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ロックウールによる」について理解し難い。)	3-(3)	
192	184	22 - 24	施設内では、病原体と拮抗する微生物相が貧弱で、害虫を捕食する天敵がないなど、露地よりも生物相が多様ではない。	学習上必要な出典が示されていない	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
193	185	図28	全体	生徒にとって理解し難い写真である。 (図タイトルと写真の関係について理解し難い。)	3-(3)	
194	185	10	年防除害虫	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
195	186	6	管理環境制御	生徒にとって理解し難い表現である。 ([1行]「環境管理」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
196	186	表4	[相対湿度(%)]低すぎると、カルシウム欠乏などの障害が出ることがある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (低すぎる場合だけカルシウム欠乏が出ることがあると誤解する。)	3-(3)	
197	188	表5	全体	学習上必要な年次が示されていない。	2-(10)	
198	190	図1	農業散布中	誤記である。	3-(2)	
199	191	3 - 5	欧米に比べて農薬の使用量が数倍も多い。とくに殺虫剤と除草剤の使用が多く、それぞれ農薬全体の3分の1を占めている。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
200	191	7 - 10	最近では一部の農薬が魚類や両生類に対して環境ホルモンとして作用している可能性が指摘されており、そのために欧州では数種類の農薬がすでに失効となっている。	不正確である。 (「最近」、「魚類や両生類」、「数種類」について)	3-(1)	
201	194	2 - 3	植物や動物の遺体や排泄物を食べる動物や微生物から始まる食物連鎖を腐食連鎖という。 [図4]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (「食物連鎖」と「腐食連鎖」の違いについて理解し難い。)	3-(3)	
202	194	10 - 14	植物は光をエネルギー源として有機物の合成を行うが、使われたエネルギーの一部は有機物の中にため込まれる。これらのエネルギーは、食物連鎖の各段階で、一部はそれぞれの生物の熱源	生徒にとって理解し難い表現である。 (エネルギーを有機物の中にため込むことについて理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			として利用され、残りの部分はそれらの生物のからだを構成する有機物の中にため込まれる。			
203	195	5	特徴的をもつ。	誤記である。	3-(2)	
204	195	図5	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (図タイトルと図の関係について理解し難い。)	3-(3)	
205	198	図9	特殊肥料	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
206	200	5	窒素を浄化する [7~8行]窒素を水田や森林で効果的に浄化する	生徒にとって理解し難い表現である。 (窒素を浄化することについて理解し難い。)	3-(3)	
207	201	4	耐性を示す害虫	不正確である。 (耐性)	3-(1)	
208	201	5 - 6	環境保全型農業では総合的防除の視点から耕種的防除や生物的防除を重視し、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (耕種的防除と生物的防除だけを重視すると誤解する。)	3-(3)	
209	201	13 - 14	収穫時の減収量を推定するシステムとして実用化されている(図15)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (参照先との関係について理解し難い。)	3-(3)	
210	202	1	農薬を使用する場合は、水質環境基準などの基準を	生徒にとって理解し難い表現である。 (「水質環境基準」について理解し難い。)	3-(3)	
211	202	3	解放された農地	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
212	204	14	分解しすること	誤記である。	3-(2)	
213	207	11	仮比重(土壌の多孔質の物質を表す数値)	生徒にとって理解し難い表現である。 (「土壌の多孔質の物質を表す数値」について理解し難い。)	3-(3)	
214	208	4 - 5	クロロピクリンテープ [31~33行]クロロピクリンテープによる処理と防虫ネットによるトンネル栽培によって、農薬を減らした防除が可能であること	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (クロロピクリンテープの説明がない。また、クロロピクリンテープが農薬でないと誤解する。)	3-(3)	
215	212		[右下]イネの生育調査 写真	不正確である。 (写真とタイトルの関係について)	3-(1)	
216	213	中段	①トウモロコシ・イネ [葉齢]一つ前の葉を10とみて、長さを比べて表す	誤りである。 (イネの葉齢を一つ前の葉を10とみて、長さを比べて表すことについて)	3-(1)	
217	216	8	一つの葉の複葉の片方 [図1]一つの葉の複葉の片方	生徒にとって理解し難い表現である。 (「片方」について理解し難い。)	3-(3)	
218	217	表1	全体	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
219	220		[方法(1)]気象情報を活用して気候の影響を軽減してみませんか?	誤記である。 (「活用」)	3-(2)	
220	222	23	沖積度	誤記である。	3-(2)	
221	222	27	水相率 [29行]水相率 [30行]水相率	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 栽培と環境	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
222	223	30	塩類濃度の過多を推定する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「過多を推定する」について理解し難い。)	3-(3)	
223	223	30 - 32	測定は1cm ² の2枚の電極板を1cm間隔で溶液中においたとき、極間の電気抵抗値の逆数をこの溶液の比電気伝導率とよび、S(ジーメンズ)/cmで表す。	生徒にとって理解し難い表現である。 (主語と述語の関係について理解し難い。)	3-(3)	
224	223	31 - 32	比電気伝導率とよび、S(ジーメンズ)/cmで表す。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([80ページ6行]電気伝導度及び[側注1]mS/cmに照らして理解し難い。)	3-(3)	
225	225		[考察②]含量 [考察③]含量 [研究②]含量 2か所	生徒にとって理解し難い表現である。 ([方法(6)]含有率に照らして理解し難い。)	3-(3)	
226	230	29	テントウムシダマシ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (正式名称について誤解する。)	3-(3)	
227	232	表1	反射剤	誤記である。	3-(2)	
228	233	表3	チャホコリダニ 2か所	誤りである。	3-(1)	
229	234		[56ページ 出典]作物統計令和元年産	不正確である。	3-(1)	
230	裏見返 5		[中段中]MYSVウイルス	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-7		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業機械	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	7	8 - 10	くわ(鋤)で深さ8cmしか耕せないような土地でも、トラクタを用いたすき起こし作業では深さ20～30cmは耕すことができる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
2	12	6 - 7	回転動力をとり出す装置を電動機という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。(回転動力だけを取り出すと誤解する。)	3-(3)	
3	12	9 - 11	化石燃料の使用量を減らして、地球温暖化の防止に貢献できるように、電動機の省エネルギー対策が進められている(→p. 18)。	生徒にとって理解し難い表現である。(参照先について理解し難い。)	3-(3)	
4	17	図11	[右図] 負荷角の範囲を示す曲線	生徒が誤解するおそれのある図である。(角度の寸法について)	3-(3)	
5	18	表2	[39行] 電力	不正確である。	3-(1)	
6	20	3 - 4	天井すえつけは安全上できるかぎり用いない。	生徒にとって理解し難い表現である。(主語と述語の関係について理解し難い。)	3-(3)	
7	24	図3	⑮キャブレータ [29ページ11行] キャブレータ (2か所) [29ページ14行] キャブレータ [29ページ20行] キャブレータ [29ページ図15] キャブレータ	誤記である。	3-(2)	
			[189ページ左2列中央] キャブレータ			
8	25	8 - 10	アルミニウム合金鋳物でつくられているものは、シリンダ内面に耐摩耗性のあるシリンダライナを圧入して使用する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。(必ずシリンダライナを使用すると誤解する。)	3-(3)	
9	26	図8	クランクアームとクランクピンの指示位置	生徒が誤解するおそれのある表現である。(1か所しかないと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-7		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業機械	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	27	図11	[オーバーヘッドバルブ式(OHV)]クランク軸の回転が、カム・タペット・プッシュロッド・ロッカアームと經由され、	生徒にとって理解し難い表現である。 (クランク軸の回転がどのように經由してバルブが開閉されるかについて理解し難い。)	3-(3)	
11	29	図15	ベンチュリ内の主ノズルの突き出し	不正確である。	3-(1)	
12	31	図18	[④]パルサ電流	誤記である。	3-(2)	
13	34	図24	油かきの指示位置	誤りである。	3-(1)	
14	38	11	ほとんどの農業機械は、年間を通して常時使用されることは少なく、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ほとんどの農業機械」について理解し難い。)	3-(3)	
15	39	側注2	図全体	実習における作業の安全について適切な配慮がされていない。 (高圧コードがむき出しで点火プラグにつながっており危険である。)	固有 1-(1)	
16	40	3	混合気が点火し、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「混合気が点火」について理解し難い。)	3-(3)	
17	40	16 - 17	重くなると、ピストンが熱で焼きついてしまう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「重くなると」について理解し難い。)	3-(3)	
18	41	図32	燃料噴射弁の図	生徒にとって理解し難い表現である。 (「燃料噴射弁」であることが理解し難い。)	3-(3)	
19	44	2 - 3	ディーゼルエンジンは、ガソリンエンジンと使用燃料が異なるため、同じ回転速度では出力が小さい場合が多い。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (使用燃料が異なることが原因と誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-7		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業機械	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
20	44	2 - 5	ディーゼルエンジンは～出力が小さい場合が多い。エンジンの出力を上げるために～考えられた装置が過給機である。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (過給機がディーゼルエンジンのために考えられた装置と誤解する。)	3-(3)	
21	45	側注1	比較的細いシリンダ内を往復して、燃料を圧送する棒状のピストン。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 ([41ページ図32吸気]「シリンダ」, 「ピストン」と同じであると誤解する。)	3-(3)	
22	51	表9	[排気量]式全体	誤りである。 (左辺(L)と右辺(mm3)で単位が異なる。)	3-(1)	
23	53	14 - 15	植物を原料に生産されたバイオエタノールを配合したバイオガソリン	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (バイオエタノールを直接配合したものだけがバイオガソリンであると誤解する。)	3-(3)	
24	54	図47	SAE粘度の大きいものほど、粘度が高い。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([側注1]「数字の大きいものほど、粘度が高い。」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
25	64	14 - 15	図12のように、自動制御には動作の結果が原因に戻って作用を及ぼすフィードバック制御がよく使われる。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([図12]「全体」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
26	68	図16	全体	不正確である。 (08～18年の死亡事故件数(件))	3-(1)	
27	69	図17	歩み板を使って段差をこえる場合は後進で行う。	作業の安全について適切な配慮がされていない。	固有 1-(1)	
28	70	表9	強度 大きな衝撃や振動を受けやすいので強くしてある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (何の強度であるのかについて理解し難い。)	3-(3)	
29	81	表14	[駆動力]全機械効率(%)	誤りである。 (「%」では式が成り立たない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-7		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業機械	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
30	88	図4	[うね立て]写真	生徒にとって理解し難い写真である。 (うね立てについて理解し難い。)	3-(3)	
31	89	10	Vベルトクラッチ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
32	98	18 - 19	進行方向に対するディスクギャングの傾きをギャング角といい	生徒にとって理解し難い表現である。 ([99ページ]図19に照らして理解し難い。)	3-(3)	
33	101	側注1	円板上の一点が描く曲線	不正確である。 ([図28]トロコイド曲線との関係からみて不正確である。)	3-(1)	
34	109	13	側条施肥② [側注2]局所施肥によって、コストと環境負荷の低減がはかれる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「側条施肥」及び「局所施肥」の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
35	109	13 - 14	苗箱への殺虫剤の散布装置 [図16]農薬散布装置	表記が不統一である。 (「殺虫剤」, 「農薬」)	3-(4)	
36	111	16	苗をまっすぐに植える。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「まっすぐ」が理解し難い。)	3-(3)	
37	111	側注1	100～150gの乾燥させたもみをまく。	誤りである。 (乾燥されたもみ)	3-(1)	
38	116	1 - 2	液体が羽根の上面から下面を通過するさいの速度変化	生徒にとって理解し難い表現である。 (上面と下面がどこでどのような速度変化が生じるかの説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
39	118	6	散布機などの種類がある(表3)。 [表3]全体	生徒にとって理解し難い表現, 表である。 (本文記述と表の関係について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-7		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業機械	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
40	118	表3	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
41	121	図45	田植え期 ばか苗病	生徒が誤解するおそれのある図である。 (ばか苗病の防除時期を誤解する。)	3-(3)	
42	121	図45	しま葉枯れ病 白葉枯れ病 紋枯れ病	不正確である。	3-(1)	
43	121	図45	水稻栽培における散布機の利用	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (表に記載してあるだけと誤解する。)	3-(3)	
44	122	図1	稲作の作業時間の推移	不正確である。 (図は稲作の作業時間の推移だけでない。)	3-(1)	
45	130	表2	全体	生徒が誤解するおそれのある表である。 (必ず表中の各乾燥機の「処理量」及び「毎時乾減率」であると誤解する。)	3-(3)	
46	131	1	含水率 [2行]含水率 (2か所) [5行]含水率 [7行]含水率 [側注1]含水率	生徒にとって理解し難い表現である。 ([表3]「水分(%)」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
			[表3]含水率			
47	146	図3	兼用運搬車	生徒にとって理解し難い表現である。 (「兼用」が何を意味しているのかについて理解し難い。)	3-(3)	
48	151	側注1	熱を運ぶのに使われるガス。フルオロカーボンなどのいわゆるフロン類が多く用いられている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-7		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業機械	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
49	162	図1	全体	不正確である。 (08～18年の死亡事故件数(件))	3-(1)	
50	170	表3	全体 [191ページ 170表3]出典全体	生徒にとって理解し難い表である。 (表と出典との関係について理解し難い。)	3-(3)	
51	174	表4	全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (表に記載してあるだけと誤解する。)	3-(3)	
52	191	出典一覧	[68図2]平成19年・平成29年に発生した農作業死亡事故の概要 2009・2019	不正確である。 (18年のデータ出典)	3-(1)	
53	191	出典一覧	[162図1]平成19年・平成29年に発生した農作業死亡事故の概要 2009・2019	不正確である。 (18年のデータ出典)	3-(1)	
54	191	出典一覧	[163図2]平成19年・平成29年に発生した農作業死亡事故の概要 2009・2019	不正確である。 (年)	3-(1)	
55	191	出典一覧	[172表2]米生産費・全国農業地域別__米の全国・全国農業地域別生産費__米の作業別労働時間	不正確である。 (出典名)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-8		学校 高等学校		教科 農業	種目 生物活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 3		[上段右]向き合った色を補色(反対色)という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (補色と反対色が同じと誤解する。)	3-(3)	
2	4	13 - 14	2010年には65歳以上の高齢者が総人口の23%となりました。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (最新のデータと誤解する。)	3-(3)	
3	4	20	生き物や草木	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (草木が生き物でないと誤解する。)	3-(3)	
4	6	8	パソコンやスマートフォンなどのモバイル端末	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのパソコンがモバイル端末であると誤解する。)	3-(3)	
5	9	20 - 24	1980年, アメリカにおいて, ~生存率が著しく高かった。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての場合で生存率が著しく高くなると誤解する。)	3-(3)	
6	9	26 - 28	1991年には, イギリスにおいて, ~生活の質が向上したことが報告された。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
7	9	29 - 31	1995年にオーストラリアで~少ないことが報告されている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
8	12	26 - 29	オーストリアの研究者によると, ~コミュニケーションからもたらされるという。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
9	12	側注1	活用される動物は, イヌがもっとも多く, 次いでウマ, ネコの順である。	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
10	13	12 - 13	体験的に学習を進めるときに, よりよいものになろうと工夫や改善をする中で, 実践力や想像力が身につく。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([8ページ13行]「「よりよく」と考え行動する源が, 「創造性」である。」に照らして「想像力」が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-8		学校 高等学校		教科 農業	種目 生物活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	16	3	社会動物	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
12	25	表5	『人もペットも気をつけたい園芸有毒植物』 [表6]『人もペットも気をつけたい園芸有毒植物』	不正確である。 (出典名について)	3-(1)	
13	26	13 - 15	秋にまいてから翌々年に開花する二年草に分類される。一・二年草(図1)は開花して種子をつくると枯れ、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (二年草について誤解する。)	3-(3)	
14	27	1	パンジー(ビオラ) [表1]パンジー(ビオラ)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (括弧内外の関係について誤解する。)	3-(3)	
15	33	10 - 11	ランドスケープ庭園(運動)が起こり、	生徒にとって理解し難い表現である。 (庭園が起こりが理解し難い。)	3-(3)	
16	43	7	レザーフアン(ラインフラワー, グリーン)	生徒にとって理解し難い表現である。 (グリーンの説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
17	52	図45	大学生協同	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
18	52	側注1	滞在型の休暇・余暇活動	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (滞在型だけがグリーン・ツーリズムと誤解する。)	3-(3)	
19	52	側注4	特定外来種であるオオキンケイギクはワイルドフラワーとして過去に多く用いられていた。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ワイルドフラワーとしてだけ用いられていたと誤解する。)	3-(3)	
20	58	11	エダマメなどは、未熟な果実を食す。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (エダマメが果実と誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-8		学校 高等学校		教科 農業	種目 生物活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
21	60	9 - 10	種子は1粒だけでなく複数まくことで、発芽しやすくなる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ、複数まくことで発芽しやすくなるかが理解し難い。)	3-(3)	
22	60	コラム	必ずしも科学的に立証されているものではない。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (立証されているものがないと誤解する。)	3-(3)	
23	63	21 - 22	浅漬け(一夜漬け)は短時間でできるため、プログラムをつくりやすい。	生徒にとって理解し難い表現である。 (プログラムが何かを理解し難い。)	3-(3)	
24	66	21	ポプリ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
25	68	28	腐植③ [側注3] 土壤中の動植物由来の有機物が、おもに微生物の働きによって分解されたのち、再合成された、褐色～暗褐色をした有機化合物の総称。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (腐植について誤解する。)	3-(3)	
26	71	11	ハーバルバス	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
27	75	3 - 4	近年、広い面積の栽培場所が確保しにくいことから、家庭園芸が普及し、一般家庭では植物を鉢などで栽培することが多くなった。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (広い面積の栽培場所が確保しにくいことが家庭園芸の普及の主因と誤解する。)	3-(3)	
28	79	20	ピザガーデン [82ページ2行]ピザガーデン [82ページ図48]ピザガーデン	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ピザガーデン」について理解し難い。)	3-(3)	
29	85	4	ペット(愛玩動物) [19～20行]コンパニオンアニマル(伴侶動物)	生徒にとって理解し難い表現である。 (ペット(愛玩動物)とコンパニオンアニマル(伴侶動物)の違いについて理解し難い。)	3-(3)	
30	85	表1	全体	最新のものを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-8		学校 高等学校		教科 農業	種目 生物活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
31	86	9 - 13	ヤギ・ヒツジは、1万年ほど前に～採卵を目的として家畜化された。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
32	86	14 - 15	日本では、乳牛133万頭、肉牛250万頭、豚916万頭、採卵鶏1.8億羽、ブロイラー(肉用鶏)1.4億羽が飼育されている(2019年)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
33	86	図3	J. M. Siegel, 1990年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
34	87	10	疲れたからだを休める働きがある。 [166ページコラム]副交感神経(からだを休める神経)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (からだだけを休めると誤解する。)	3-(3)	
35	87	11 - 12	オキシトシンも、動物とのふれあいによって分泌される。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのふれあいによって分泌されると誤解する。)	3-(3)	
36	90	3 - 4	病気の回復や治療を目的とした医療行為	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (病気だけと誤解する。)	3-(3)	
37	90	コラム	動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)、動物介在活動(AAA)、動物介在コーチング(AAC)の四つを合わせた呼称である。2014年に行われた、人と動物の関係に関する国際組織の理事会で、定義がなされた。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (動物介在コーチング(ACC)も2014年に定義がなされたと誤解する。)	3-(3)	
38	92	図9 (7)	マイクロチップの埋め込み	生徒にとって理解し難い表現である。 (マイクロチップの埋め込みに関する取扱いについて最新の状況が反映されておらず理解し難い。)	3-(3)	
39	92	側注1	意識を失う場合もある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (意識を失うだけと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-8		学校 高等学校		教科 農業	種目 生物活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
40	93	1	「動物の愛護及び管理に関する法律」には罰則規定はない	誤りである。	3-(1)	
41	93	コラム	日本に定着している国外由来の外来種は、約2000種に達しており、そのうちの28種は哺乳類である。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
42	95	2	「5つの自由」は1968年にイギリスで提唱された。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (提唱された年次について誤解する。)	3-(3)	
43	95	12 - 13	動物園や水族館などで飼育される野生動物	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (野生動物について誤解する。)	3-(3)	
44	97	図3	「飛節」の引出線	誤りである。	3-(1)	
45	98	2	世界に400種をこえる品種	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (世界に存在する品種数について誤解する。)	3-(3)	
46	98	14	音声信号	誤りである。	3-(1)	
47	98	20	相手を特定せずに交配する。	誤りである。 (交配)	3-(1)	
48	100	22	発育段階 [101ページ3行]成長段階 [133ページ10行]成長過程	生徒にとって理解し難い表現である。 (用語の使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
49	100	22 - 23	ライフサイクル(妊娠・哺乳，老化など) [133ページ10行]妊娠・哺乳，老齢などのライフサイクル	表記が不統一である。 (老化，老齢)	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-8		学校 高等学校		教科 農業	種目 生物活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
50	100	図7	全体	学習上必要な年次が示されていない。	2-(11)	
51	104	9	認知症	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (人の病氣と誤解する。)	3-(3)	
52	105	2 - 3	訓練やしつけは、トレーニングによって人間が好ましいと思う方向に行動をかえていく学習の過程のことである。	誤りである。 (訓練やしつけは学習の過程ではない。)	3-(1)	
53	107	図14	全体	学習上必要な年次が示されていない。	2-(10)	
54	112	図1	ウマの前後肢の指	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ウマの肢は、4本とも同じと誤解する。)	3-(3)	
55	114	6 - 8	第二次世界大戦中には150万頭ほど飼育されていたが、現在は7万頭弱にまで減少している。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
56	114	8	競走馬やそれに関連するウマである。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「それに関連するウマ」が理解し難い。)	3-(3)	
57	117	19	動物は甘いものを好む。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての動物に該当すると誤解する。)	3-(3)	
58	119	21 - 22	比較的大きなウマが一日に食べる牧草の量(粗飼料)は12~17kg [26行]比較的大きなウマが一日に飲む水の量は20~30L	生徒にとって理解し難い表現である。 (比較的大きなウマの体重が不明確であり理解し難い。)	3-(3)	
59	126	6 - 8	2002年2月時点で、非営利組織は31か国44機関、個人は41か国256名が加盟していた。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (最新のデータと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-8		学校 高等学校		教科 農業	種目 生物活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
60	126	9 - 12	日本では、1986年に「日本身体障害者乗馬連盟」が結成され、1995年に改組して「日本障害者乗馬協会」となった。現在、国内で障害者乗馬を実施しており、約40施設がこれらに関心をもっている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (現状を誤解する。)	3-(3)	
61	131	8 - 10	ヤコブソン器官はフェロモンを感知する器官であり、初めてかいだにおいなどを詳しく調べるときに、この器官にフェロモンを送り込むために、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「初めてかいだにおいなど」と「フェロモン」の関係が理解し難い。)	3-(3)	
62	131	19	ネコは、樹上で身をかくしながら獲物を待ち伏せる習性	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (樹上だけで待ち伏せると誤解する。)	3-(3)	
63	138	21	牧草を切らさないように与えて	生徒にとって理解し難い表現である。 (「牧草を切らさない」について理解し難い。)	3-(3)	
64	142	21 - 22	ワーム⑥,	生徒にとって理解し難い表現である。 (行頭の「,」について理解し難い。)	3-(3)	
65	147	8 - 9	緩和治療③や終末期医療③	生徒にとって理解し難い表現である。 (側注3との関係について理解し難い。)	3-(3)	
66	149	21 - 24	補完代替医療の範囲は広く～免疫療法③～も含まれている。 [側注3]免疫療法「特異的免疫療法」が開発されている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 ([19行]「補完代替医療」に特異的免疫療法が該当すると誤解する。)	3-(3)	
67	171	11 - 12	傾聴の目的は相手を理解することである。話し手が自分自身に対する理解を深めるようサポートする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「相手を理解」と「話し手が自分自身に対する理解」との関係が理解し難い。)	3-(3)	
68	174	30 - 31	発達段階によって適正となる体験は異なる(表1)	生徒にとって理解し難い表現である。 (参照先について理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 103-8		学校 高等学校		教科 農業	種目 生物活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
69	177	図2	チルドレンガーデン	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
70	181	18 - 19	対象者と同じ作業をいっしょに体験する	生徒にとって理解し難い表現である。 ([12行]「対象者が相互に理解を深める」に照らして理解し難い。)	3-(3)	
71	184	4 - 6	人と人との関係で、互いに意思や感情を共有し合ったり、伝達し合ったりするときに、相手がいま、どのような状態であるかを把握できる能力、つまりコミュニケーション能力	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「コミュニケーション能力」について誤解する。)	3-(3)	
72	191	4 - 6	飼育しているヒツジの毛を活用し、ニードル針で羊毛を形づくる羊毛のフェルト加工も行い	生徒にとって理解し難い表現である。 (「ニードル針で羊毛を形づくる羊毛のフェルト加工」について理解し難い。)	3-(3)	
73	裏見返 6		中型犬 柴犬	不正確である。	3-(1)	
74	裏見返 6		[中型犬]ウエルシュコーギーベンブローグ	誤記である。 (ベンブローグ)	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。